

学校運営協議会の運営状況について

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成19年度指定	東浅川小学校	12回	<ul style="list-style-type: none"> ・夏楽校 ・漢字検定 ・授業参観・授業評価 ・登下校の挨拶見守り ・学校運営協議会だより ・学校行事への参加や、生活指導上の課題検討 	<p>①夏楽校・・・児童が日頃味わえない様々な体験活動を行い、日常生活で生かされることをねらいとしている。内容は、昔遊び、バスの乗車マナー、車椅子体験、AEDの使い方、戦争体験学習(資料、講話)等を行っている。</p> <p>②漢字検定・・・確かな学力を身につけた児童育成の一つとして、多くの児童の漢字力向上をねらいとしている。</p>	<p>①地域参画型の体験的活動「夏楽校」の実施により、保護者や地域の教育力の向上が図られた。</p> <p>②漢字検定を通し、多くの児童の漢字力向上が図られた。保護者の参加もあり関心の高まりがみられた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・夏楽校の充実・発展(1学期) ・漢字検定の充実・拡大(3学期) ・親子なかよし映画会の実施(2学期)・・・来年度実施 ※ 人間関係をテーマとした映画鑑賞を通し、いじめ、不登校、自殺等の現代社会の問題について、親子で語り合い、共に考え、自他の心に向き合うことをねらいとしている。
	第六中学校	8回	<p>①「真の学力」向上5カ年計画のうち4年目を迎え、生徒が身に付けるべき具体的な学力とその具現化策について協議した。</p> <p>②各種学校評価アンケートにおいてポイントの低い家庭学習に対する取組を検討した。</p> <p>③本校で求める具体的な「真の学力」の一つとして「地域に貢献する力」を位置付け、6年目を迎える地域総合防災訓練のあり方を検討した。</p>	<p>①放課後学習教室(マンディクラス、寺子屋)を継続し、教育サポーター、教員による継続的な取組を行った。</p> <p>②家庭での自学自習の基本となる、「学習の手引き」を作成した。</p> <p>③10月に第6回地域総合防災訓練を実施した。</p>	<p>①生徒に求める「真の学力」について意見交換を行い、質の高い授業を行うことにより進学等に関わる学力の他、いわゆる生きる力のうち課題解決力や問題に対応する力も重要であることが共通認識された。また、基礎学力の定着を目指した、マンディクラス、寺子屋の開催により、学習につまずきや苦手意識を持つ生徒が、継続して学習に取り組む習慣が確立した。</p> <p>②なぜ学習するのか、学習することで何に役立つのかを知り、各教科の学習の目的を知る機会とし、学校運営協議会の中での理解を図った。全校、学級で段階的に周知しながら、生徒自らが学習について思考する力が育ってきている。</p> <p>③学校運営協議会主催で第6回地域総合防災訓練を実施し、町会の一員としての役割、自助共助の取組を行い、日頃の生活圏での取組を意識することができた。</p>	<p>①学校として求める「真の学力」の中心は生きる力であることを、再度教職員が理解を深めること、保護者・地域が深く共通理解できるよう具体的な取組や広報活動が必要である。</p> <p>②①のことも関連して、得点力等の基礎的学力を定着させる方策として家庭学習をとらえ、学校評価アンケートでのポイントがあがる取組を推進する。</p> <p>③地域の一員としての役割を理解し、大規模災害発生時に役立つ訓練内容を取り入れる。</p>
	宮上中学校	13回	<p>①放課後の児童・生徒の遊びから～子どもの居場所作りと地域の関わり～</p> <p>多摩ニュータウンの中で、宮上地区は公園等の数はあるものの、児童生徒が地域の方で見守られながら遊んでいる姿をあまり見ない。また、遊び方にも制約がありのびのびと子どもが遊べない実状がある。杉並区高井戸地区の公園での例を基に、地域での子ども遊びについて熟議した。</p> <p>②宮上地区30年を迎えて、これから学校運営協議会として取り組むこと</p> <p>今までの熟議をまとめ、宮上地区30周年を迎えるにあたって、学校運営協議会が学校と地域を結ぶためにできることについて熟議した。</p> <p>※以上については、宮上小学校・下柚木小学校と3校合同で熟議した。</p>	<p>①みやかみミュージアムの開設</p> <p>学校提案型予算により、開設へ向けて部屋の整備等が行われたことから、運営ボランティアの募集や多摩美術大学の学生、研究室との連携を図りながら、展示の整備を行った。</p> <p>②土曜学習教室の実施</p> <p>生徒の自学自習の場面として、今年度も土曜学習教室の学習ひろばを開催した。また、これまで学生ボランティアを学習ひろばだけで支援していたが、学校が主催する土曜補習にも派遣することができた。</p>	<p>①みやかみミュージアムについては、多摩美術大学との連携を図ることができ、生徒の作品を展示し、定期的に展示替える体制を作ることができた。</p> <p>②土曜学習教室については、参加した生徒は大変集中して利用することができ、教室を管理しているPTA学習支援部との連携もスムーズにできた。また、玉川大学教職大学院と連携して、教員免許を保持している学生により、支援を受けることができた。</p>	<p>①みやかみミュージアムについては、今年度、生徒の作品を展示し公開する場としては体制が整った。地域に向けて開放するための運営スタッフを広く募集し、地域との連携と学校と地域をつなぐ場としての活動へとつながることが課題である。</p> <p>②土曜学習教室については、自学自習の場である学習ひろばへの参加が少なくなったことが課題である。学校の家庭学習との取組とも連携しながら、意義を生徒たちに伝えていくとともに、部活動等との連携も考えたい。</p>

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成20年度指定	陶館小学校	11回	<p>①TOYO ACTION5に関する協議 ②教員との協力連携体制に関する協議 ③学校評価などに関する協議 ④親子で参加できる企画(ナイトツアー)などに関する協議</p>	<p>①TOYO ACTION5の反省用紙を配布しさらに学習習慣の改善の測れるものにしていく。 ・PTA総会時に学校運営協議会の説明とTOYO ACTION5の協力を呼び掛ける。 ②6月と12月に教員16名と学校運営協議会委員との話し合いを実施した。学力向上の取組の評価と、学校評価書の実態把握に活用した。 ③平成29年度の学校評価書を作成し次年度の改善に生かす。 ④親子で参加できる企画をおやじの会主催で行う。(ナイトツアー) ・子どもの居場所分科会が開催するナイトツアーに十数名参加し、児童管理や受付を行った。</p>	<p>①TOYO ACTION5の周知に努め、朝食を食べている児童や学校のことを話す児童は増えた。学力に関する関心は高まりつつあり、学校公開に毎回700人の参加があった。 ②懸案であった学校運営協議会に教員の参加が少ないことへの解消策として、年2回の教員との意見交換会を開催した。 ③1月に学校評価書を作成し、評価した内容を2月にまとめ、3月に29年度学校経営の素案を提示した。 ・道徳授業地区公開講座に学校運営協議会の委員に参加してもらい道徳授業について話し合った。 ・開校140周年を記念し、どんぐり山の改修工事など、学校整備事業を実施した。 ④今年度ナイトツアーをおやじの会を中心に実施し、ナイトツアー450名の参加があった。 ・行事の参加が多くなった。このほかにも子ども会キャンプ、町会の夏祭り等参加の輪が広がった。</p>	<p>・TOYO ACTION5の周知に心掛け、学校教育をバックアップする体制を作る。 ・TOYO ACTION5に「SNSの利用の注意」を追加しTOYO ACTION6に改定をし、さらに保護者・地域に浸透を図る。 ・特に睡眠時間で課題が見られ、学習用具の忘れ物も減らない。 ・教員のアンケートに学校運営協議会に協力していないとする教員がいる。地域運営学校の教員であるという自覚を促していく。 ・主幹教諭を中心に、管理職だけでなく学校教育の状況を伝えていく主体者に育成する。 ・子どもの居場所分科会の行事に参加する教員をさらに増やし、行事の中で役割の一端を担えるよう事前準備をする。 ・道徳授業地区公開講座での取組は継続を強く望んでいるので、発展的に続けていく。 ・保護者の育児に関する疑問・質問が多く学校に寄せられている。地域で子育てを支援する体制が取れると、トラブルを未然に防げる。 ・どの教員でも授業の中で地域の教育力を活用できるような人材バンクのデータ化を図る。 ・おやじの会の組織率を上げ、学校行事や学校の経営方針を守り、助ける「お助け隊」を組織する。 ・市の提案型予算を活用し、児童参加型の地域防災を実施していく。</p>
	浅川小学校	9回	<p>①あさっこTシャツの販売⇒児童・教員・保護者・地域・PTA本部に販売し、学校と地域が一体となった活動の充実 ②日本語検定の実施⇒年々検定者が増加傾向にあり、今後も継続して教育に伴う補助活動を充実 授業支援⇒協議会委員の学識経験者や保護者等による学習支援に加えPTAと連携したボランティア活動も行い、学校の支援を図った。 ③都市緑化フェア⇒都市緑化はちおうじフェアスポーツ会場としてどのような活動を進めていくか。また、地域・学校・保護者がどのようにかかわっていけばよいか。</p>	<p>①PTAや地域組織から人材を発掘し、浅川中学校と連携し、後継者を育成した。 ・広報活動と啓発活動を継続して行い、特に様々な地域行事でのPRを推進した。 ・協議会構成員には、様々な団体や組織に加入している人材がいることから、情報共有と連携のために、活動報告を通じた意見交換を行った。 ②学習支援の充実のために、多岐に渡り活動の幅を広げていった。 ③市制100周年記念の年にふさわしい活動として、浅川小学校を都市緑化はちおうじフェアスポーツ会場に登録し、CSが核となって地域・保護者・児童が共に取り組んだ。</p>	<p>①Tシャツ販売で捻出した資金を活用し、学校からの要望品を購入し、子どもたちに還元した。 ・Tシャツを運動会開催時、学校・協議会・PTAで色違いで着用し一体感を出せた。 ②日本語検定では、中学校協議会とも連携し小学生に加え中学生の検定者も加わった。 ・新入生の給食補助や課題を抱えた児童への支援、各種授業の補助など、学校のニーズに応えることができた。 ③児童や教職員、保護者が市制100周年・都市緑化はちおうじフェアにかかわることで、自然環境や緑化の大切さの意義を感じ、児童が参加する意欲、地域貢献の意識を醸成し、地域から愛される学校として活動することができた。</p>	<p>・更なる小中一貫教育の充実(小中合同協議会開催)※H29年度実施1回 ・学校と地域、保護者のニーズに応えられる体制の再構築(PTAとの連携、地域活動への参加、教員との更なるコミュニケーション等) ・浅川地区の特色を生かした活動と平成29年度小中合同協議会開催での課題や意見の整理と協議会としての活動幅の拡充</p>

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成20年度指定	元八王子中学校	12回	①地域ボランティアの発掘について ②検定試験の参加むけての取組方 ③PTAや生徒との懇談会の企画	①地域在住の元Jリーグ選手によるサッカー部の指導及び地域在住の助産師による命の授業の実施 ②各種検定には地域小学生、中学生、大人を含め、延べ150名程度の参加があった。 ③PTAや生徒との懇談会	①地域の方の発掘により、生徒は身近な人とのかわりをもつことができた。 ②検定を受けることにより、学習意欲へとつながった。 ③生徒やPTAと直接会話をもつことで、今後の活動への参考となった。	①今後も地域ボランティアの発掘を続ける。 ②各種検定も続けていくが、参加人数が増えるよう声掛けをする。 ③生徒やPTAと直接会話を持つ機会をつくることと、授業参観や各行事等に積極的に参加する。
	城山中学校	7回	①学校の公開行事(合唱祭、伝統芸能教室、吹奏楽部定期演奏会など)に地域住民が関心を持ち多数参加できるようにする。 ②問題行動、特に不登校生徒の保護者ならびに担任・校長先生と情報を共有し学校復帰を促す。 ③担任や校長先生が過剰なクレームを持ち込む保護者への対応に苦慮している場合は協議会でも保護者と接触し充分傾聴した上で納得できる解決策を提案する。 ④生徒に地域の歴史や伝統文化を知ってもらうプログラムを提案する。	①公開行事では学校運営協議会でもチラシを町会・自治会に配布した結果、地域の方も多数参加し盛大であった。学校運営協議会では地域から募金を募り吹奏楽部演奏会、卒業式の会場に花鉢を購入して飾って雰囲気盛り上げた。この花鉢は入学式にも活用される。 ②校長、副校長、担任と情報を共有し連携しながら必要に応じて本人・保護者に対応する。 ③生徒・保護者や地域住民に対して電子メールを活用した「お困りごと相談窓口」(sos119shiroyama@yahoo.co.jp)を設置し、全保護者と地域に広報紙で紹介した。この相談窓口は学校運営協議会で対応する。 ④郷土愛を育てるために、八王子車人形の体験授業を3年生に対して行う。	①学校行事のチラシを地域に配布するタイミングを早めにしたリロコミによるPRもしたため、昨年度より多くの住民が参加した。 ②生活指導主任、養護教諭、担任が情報を共有し連携して本人・保護者に対応した結果、連絡が全く取れない不登校生徒はいない。幸い今年度は協議会が介入する場面はなかった。 ③保護者のクレームは極めて少なかったが、一部の保護者から部活動に関するクレームがあり、部活顧問、校長先生、副校長先生、教育委員会が連携して丁寧に対応した結果収束した。なお、お困りごと相談窓口には何のメールもなかった。 ④八王子車人形の体験授業は生徒から大変好評で次年度も続けてほしいという声があった。	①学校行事のチラシの配布時期を余裕をもって開催日の1か月前に配布するが、ロコミによるPRも積極的に行う。 ②不登校や問題行動を起こす生徒は、主として家庭の指導力不足と家庭環境に起因することが多いと思われ、個人情報に配慮しながら必要に応じて校長先生、担任と相談し慎重に対応する。 ③学校側と連携しながら保護者会には学校運営協議会委員も出席し、顔を知ってもらった上で保護者のクレームにも対応できることをPRする。 ④八王子車人形の体験授業を継続できるよう事前に講師と折衝する。
平成21年度指定	桐田小学校	11回	①学校運営協議会の活動を地域住民に広く周知し、活動者を増やす。 ・1年生給食補助 ・プール見守り活動 ・学校安全ボランティア ・漢字検定ボランティア等 ②学校運営協議会事務局(教員)を増員し、全教職員の学校運営協議会への関わりを深め、参画意識の向上を図る。また、地域行事への教職員・児童の参加率を向上させる。	①学校運営協議会委員を中心とした、4月中における「1年生給食補助ボランティア」を組織し、学校コーディネーターと連携したボランティア募集を行い、1年生給食補助に取り組む。 ・プール指導期間における低学年を中心とした「プール見守り活動」を実施する。 ・「学校安全ボランティア」を中心とした登下校時の見守り活動の取組の推進 ・漢字検定試験を実施し、児童の学習意欲を高め、基礎学力向上につなげる。 ・学校便り、学校運営委員会便り、ホームページ等を活用し、地域運営学校の趣旨や活動内容について積極的に周知する。 ②児童が桐田小代表として、地域行事に参加する機会を設ける。	①1年生の1学期当初における給食補助、プールの見守り、支援を要する児童の学習補助など、日常の教育活動での関わりが増え、地域住民の参加率が上がった。 ・漢字検定ボランティアを保護者中心に募集し、6名の保護者が参加した。また、昨年度より、受検数も279名(受検率48.8%) (合格率81.9%) ②青少年対策地区委員会地域清掃参加率が大幅に増加(3月実施…児童、教職員120名以上参加) ・毎月の運営協議会へ参加することにより、学校運営の核となる教員が、地域の声を直接知ることができ、日常の教育活動実践の工夫につながった。また、全教員が全体会に参加することで、地域の要望、学校からの要望(協力依頼等)を互いに知ることができた。	①組織の見直しを図り、幅広い地域住民の声を教育活動に反映させる学校運営協議会にしていく。また、学校安全ボランティアだけでなく、種々のボランティアを保護者・地域住民から募り、地域と学校の一体化を教育活動を通して具体化する。 ②取組に対する広報活動の充実を図る(各自治会へのパンフレット配布など)。また、毎月の学校運営協議会への参加教員を見直し、参画意識を高める。全体会での学校職員の役割の明確化を図る。 ・学校と地域の共同防災訓練の開催に向けた準備を進める。
	中山小学校	12回	①学校運営協議会委員全員を中心に、花壇やビオトープの維持など、学校環境の整備を行う。 ②中山中学校区の三校(中山小、高嶺小、中山中)で、三校合同運営協議会を学期ごとに開く。また、小中一貫教育として、学校公開日に小中合同で地域の専門家を招き、地域交流講座を開く。	①学校花壇やビオトープの整備 ②防災・安全地域マップの作成	①季節ごとに花壇の花を植え替え、「花いっぱい」を印象づけることができた。また、ビオトープの水藻を定期的に取り、児童の観察に適切な環境を維持することができた。 ②防災・安全地域マップを三校が協力して作成し、各教室に掲示することができた。また、地域交流講座では、児童・生徒が交流しながら体験学習を行い、好評を得た。	①委員だけでは手がいっぱいになるので、保護者の協力をもつと得ることが課題である。次年度はおやじの会との連携を視野に入れ、委員を中心に、広く協力を呼びかける。また、学校ホームページに地域のページを作り、広報活動に力を入れる。 ②教員のさらなる意識の向上が必要である。地域交流講座の準備において、教員一人一人が主体的に関われるようにしたい。そのため、事前の準備段階から教員もかかわるように、打ち合わせなどの機会をつくる。

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題
平成21年度指定	宮上小学校	11回	<p>①他校の学校運営協議会の内容も知り、情報共有をしたうえで、同地区の宮上中学校・下柚木小学校との連携を図るため、年3回、3校合同協議会を開催した。また、学校運営協議会委員の資質向上をめざし、市教育委員会定例会の傍聴活動も行った。本校は学校評議員も設置しており、合同開催を2度行った。</p> <p>②大学准教授と学生スタッフを講師として招き、児童のために遊びに関するイベントを開催し、他学年・多人数がともに遊べ、特別な道具を必要としない遊びの紹介をした。</p> <p>③毎月、「協議会だより」を発行し、議事の報告と毎月の学校の様子を保護者・地域向けに発信した。</p>	<p>①他校の学校運営協議会の運営方法やその方向性を知り、教育委員会定例会議事内容を理解することで、自校の運営の参考にできた。学校評議員との意見交換も学校運営には有意義だった。</p> <p>②学校運営協議会主催のイベント開催は初めての試みであったが、児童・体力作りも兼ねた楽しい遊びの紹介ができ、教職員、保護者、学校運営協議会委員の枠を超えた交流もできた。</p> <p>③保護者対象の学校評価アンケートでは、学校運営協議会に関しての肯定的回答が90%を超えた。</p>	<p>①地区内の学校同士の連携を深めるには3校合同協議会は有効であるが、合同協議会の日は自校単独協議に関して時間が十分取れなくなる現状があり、合同協議会の回数や方法を再考する必要がある。</p> <p>②学校運営協議会主催のイベントを今後さらに充実させるとともに、文化的イベントの開催も考えたい。</p> <p>③今後も保護者・地域に向けて学校運営協議会からの情報発信を継続しつつ、地域の人材を発掘することを課題としたい。常に同じ顔ぶれしか集まらないという現状の打開に努める。また、学校運営協議会委員一人一人で活動できる時間帯が異なるため、全員で学校の日常を見つめる時間が取れず、リアルタイムでの情報共有がなかなかできていない。</p> <p>また、現在、学校運営協議会開催案内発信や教育委員会への提出文書については、できるかぎり学校を頼らず協議会で作成するようにしているが、学校運営協議会が学校運営に関して積極的な提案・立案ができるほどまでには成熟していない。</p>
	下柚木小学校	11回	<p>①一昨年度、存続が危ぶまれた「放課後見守り委員会(放課後子ども教室)」は、今年度、持続的・安定的な運営に向けた組織づくりをいかに構築することができるか。</p> <p>②本校の特色である学校林の整備・活用の発展のために、可能な限りボランティアの組織化を図るとともに、他方で「東京都産業労働局」等からの支援をいかに有効活用するか。</p> <p>③ニュータウンという思い込みから、「コミュニティ・スクール」の構成員である、とこれまで考えていなかったシニア世代が意外に多いことを知り、シニア世代の参加をどのように促すか。</p> <p>④保護者同士の関係づくり、連携を構築するため、学校運営協議会がどのように関わっていくか。</p>	<p>①「放課後見守り委員会(放課後子ども教室)」の存続については、子どもが下柚木小学校卒業生の地域住民の方に、引き続き委員を引き受けていただくことで、活動継続の意義を在校生の保護者の方に説明でき、在校生の保護者委員が一定数確保できた。</p> <p>②本校に特有の学校林の有効活用については、「東京都産業労働局」等の支援の下に、講師をお招きし、またボランティアの協力を得て、学校林を使って秘密基地づくりなど体験的環境学習を実施することで、子どもたちの学びの可能性を広げるための活動の成果を確かめるため、具体的に全国育樹祭記念行事「東京都緑の少年団交流大会」に参加し、これまでの取組を発表する。</p> <p>③地域代表の委員であるシニア世代の委員の方を運動会等の行事に招き、学校との緩やかな連携の基礎を築く。</p> <p>④宮上中学校、宮上小学校との3校合同学校運営協議会の運営を継続し、児童の教育に直結した協議を経て、授業や行事等への支援につなげる。</p>	<p>①「学力向上委員会」、「学校図書館推進委員会」の活動は、安定的な活動が行われている。中心的なメンバーの交代があったとしても、継続的な活動を可能にするための一定のノウハウづくりが必要になる。他方で、「放課後見守り委員会」の委員を確保することは必ずしも容易ではない傾向にある。今後は、各委員会のメンバーを偏りなく、安定的かつ継続的に確保していくための取組が必要になると思われる。</p> <p>②本校に特有の学校林の有効活用を支えるため、「東京都産業労働局」等の支援の継続と講師の招聘、またボランティアの協力体制を継続できる体制を築いていくことが、今後の課題である。</p> <p>③地域代表のシニア世代の委員が、地域のシニア世代の方々の交流の場として昨年度「サロン」を開設してくださった。今年度は行事等の参観が実現したが、「サロン」と学校運営協議会との連携をいかに図っていくかは課題である。</p> <p>④これから数年後には、保護者相互の関係を保障するPTA組織の再編が必要になると考える。</p>
	第一中学校	11回	<p>①生徒の学習習慣の定着に向けて ・前期及び後期の教育活動アンケートの実施、分析及び提言の内容を検討した。 ・教員との懇談を重ね(6回)、生徒の現状把握に努め、提言の内容を検討した。 ※課題①放課後学習教室をサポートできる人材の推薦及び確保/課題②英語検定や漢字検定を監督できる人材の確保/課題③図書ボランティアの幅広い推薦及び確保(PTAからはボランティアとして参加してくださる方がいる。)</p> <p>②総合防災訓練のレベルアップに向けて ・学年別体験メニューは定着したが、知識や技能を他者に伝える方法が未確立 ・平成30年度は、年度当初に実行委員会をスタートさせることが必要</p>	<p>①教育活動アンケートでは、過去の数値との経年変化を分析して提言を行った。 ・平成29年度は、委員と教員とが懇談する時間を確保し(6回で、12名の教員が出席)、学校の現状把握を活かすに行い、個々の教員に助言を行った。</p> <p>②学校運営協議会に「学校支援部会」を設けて、総合防災訓練の運営実施を支援した。</p> <p>③学校運営協議会に「学校周年行事検討部会」を設けて、70周年記念式典の実施並びに記念誌編集などを具体的に支援した。</p>	<p>①本校の学校運営協議会の大きな特色で「教育活動アンケートの分析及び提言」があり、平成29年度後半の協議会でも毎回取り上げ、学校運営上の課題や改善点を協議した。 ・協議会に新規採用教員や転入教員が多く出席し、委員と教員との意思疎通が図れた。また、新採教員へは、本校及び保護者、地域の特徴などを伝えることができた。</p> <p>②第5回を数えた総合防災訓練での生徒体験メニューは、内容がほぼ整い、円滑に進めることができた。毎年、少しずつ新たな試みを加えており、成果を評価できる。</p> <p>③70周年記念事業の実施は、平成28年度から学校運営協議会でも議題に取り上げ、記念式典の実施及び記念誌編集の細かな点について支援することができた。</p>

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題
平成21年度指定	11回	<p>①市制100周年事業の一環として、陵南中学校100周年記念式典講演会の講師を、学校運営協議会委員が担当するとともに、年間を通し陵南中学校花づくりの会を支援し、校内緑化の推進を図る。</p> <p>②学校運営協議会委員が教員とともに、全3年生に対し進路面接を実施する。そのことを通し、3年生の進路選択の充実を図るとともに、委員と教員・委員と生徒の連携を強める。</p>	<p>①市制100周年陵南中学校100周年記念式典での講師による講演会の実施</p> <p>②学校と連携した3年生の進路面談</p>	<p>①生徒や保護者の地域の歴史や特色に対する理解の深化</p> <p>②3年生の進路面談の充実とその結果としての3年生の進路選択の充実ならびに学校運営協議会委員と教員・生徒との連携の強化につながった。</p>	<p>①(展望)学校運営協議会委員を講師とした授業や講演の継続実施 (課題)講師の人選や時間調整、事前の打合せ時間の確保</p> <p>②(展望)学校運営協議会委員と教員が連携した進路面談の継続実施 (課題)面談者の人選や時間調整、事前の打合せ時間の確保</p>
平成22年度指定	11回	<p>①学習ボランティアやゲストティーチャーの確保について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低、中学年を中心に各学級に入れるよう、ボランティア募集を拡充し、配置を検討する。 ②地域と連携した防災訓練 ・9月の町会防災訓練への参加 ・緊急時飲料水(児童用)の確保・保管場所・費用負担について ③七小見守り隊の活動の継続 ・募集拡大、園芸ボランティア活動について ④地域運営学校事務局の発足 ・学校運営協議会だよりの発行に向けた環境整備 	<p>①学習ボランティアやゲストティーチャーの確保について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低、中学年を中心に各学級に入れるような人的配置の検討と人材募集 ②地域と連携した防災訓練 ・9月の町会防災訓練への参加 ・緊急時飲料水(児童用)の確保→保管場所、費用負担の検討(継続課題) ③七小見守り隊の募集と活動について ・清掃活動の見守りと助言・支援 ・園芸ボランティアの支援による、学級園及び花壇の整備 ④地域運営学校事務局の発足 	<p>①「七小応援団」として人材バンクを整備し、低・中学年を中心に各学級に入れるよう配置を検討した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会としてPTAに協力依頼をし、漢字検定準会場として実施(平成29年度第3回日程) ②緊急時飲料水(児童用)の保管場所および費用負担について検討→PTAと連携を図り、具体的に整備していく。 ・地域の育成指導委員や青少年対策地区委員会委員、民生児童委員の方々に、見守り隊として校内を巡回し、生活指導の安定を果たすことができた。 ③園芸ボランティアの方々の日常的な活動により、学級園の整備、花壇や学校周辺の植栽(プランター)等の環境美化が進んだ。 ・市制100周年記念植樹として、南門花壇に「コヒガン」の苗木を植樹 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAとの連携による緊急時飲料水(児童用)の費用負担の整備 ・報告書等引継ぎのあり方についての検討 ・人材バンクの整備(学校コーディネーターとの連携) ・学校運営協議会への出席依頼の整備 ・地域運営学校組織の定着(3部会)と活動の充実 ・環境整備→屋上庭園の整備、校庭一部芝生化の環境整備 ・事務局環境整備→事務机、定例会等 ・見守り隊の拡充
	11回	<p>①漢字検定の実施</p> <p>②体力向上のための走ろう週間に合わせ長距離走の走り方講習会の実施</p> <p>③蛍の観察会、鮭の稚魚放流会の実施。</p> <p>④学校保健委員会を年3回実施する際、学校運営協議会委員の参加を依頼し、学校の保健指導の取組を公開する。</p> <p>⑤教育目標への取組を振り返り、教職員の自己評価表を公表し、それを基に学校関係者評価を作成する。</p>	<p>①漢字検定の実施、参加者は59名</p> <p>②長距離の走り方教室は、保護者・地域の参加もあり好評であった。</p> <p>③蛍の観察会、鮭の稚魚放流会の実施</p> <p>④学校保健委員会は、専門家の講演があり有意義であったが、もっと多くの参加があるとよい。</p> <p>⑤自己評価表を学校運営協議会委員に公開し評価を得る。</p>	<p>①漢字検定の申請は、59名あった。日頃の漢字学習の成果が、検定受けることにより意欲の向上につながっている。漢字検定の機会をつくっていることで、小中・地域のつながりも高まっている。</p> <p>②走り方教室では近隣の大学の方の参加により、冬季の長距離走への意欲、箱根駅伝等への関心にもつながり、近隣の大学への関心、郷土愛にもつながる機会となった。</p> <p>③蛍の会、鮭の稚魚放流会では、豊かな自然を満喫する機会となるとともに、地域理解、郷土愛の一助となった。</p> <p>④年間3回の学校保健委員会を開催したことで、学校保健の取組や保健指導の課題を学校運営協議会委員、保護者、地域で共有することができた。</p> <p>⑤自己評価表を学校運営協議会委員に公開し、評価を得ることで学校運営への参画の意識を高めた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字検定を設定することで、参加意欲を高めるとともに、学習習慣をつけ基礎学力を向上させる。 ・長距離走を進め、マラソン大会等に参加することにより、運動への意欲と基礎体力の向上を図る。 ・地域を知る活動(蛍の観察会等)を計画し、地域理解・郷土愛を深める。 ・地域合同防災宿泊訓練を行って5回目になり、自治会主催のころに比べ地域の参加率が年々低下している。今年度も土曜日開催とし、学校から、各自治会からと呼びかけ方法を工夫する。さらに近隣の医療センターとの連携もしていく予定である。 ・児童数、生徒数の減少には更なる取組を考える。

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成22年度指定	加住小中学校	11回	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営計画の承認及び経営計画に基づいた各取組についての計画及び実施後の報告 ・教育活動アンケート(保護者アンケート)への対応、改善策 ・人事構想 	<ul style="list-style-type: none"> ① 中学部1年生による「スクールファーム」の活動の支援および畑の管理 ② 「加住ふれあいコミュニティ」でのお年寄りの活動と児童・生徒との交流活動の推進 ③ 学校運営協議会主催の「親子料理教室」の開催 ④ 加住地区町会自治会連合会や加住地区住民協議会との連携による夏季休業中におけるサタデースクールへの協力 ⑤ 学校運営協議会委員による職員会議や研修会への参加 	<ul style="list-style-type: none"> ① 総合的な学習の時間の一つの柱としての活動として実施することで、生徒の体験的な学習を支援することができた。 ② 学校コーディネーターの活用を推進し、地域のコミュニティとしての機能を充実させることができた。 ③ 食育に一環として位置づけ、学校栄養士の協力も得て、児童及び保護者に望ましい食の在り方について学ぶ機会を提供できた。今年度は小学部PTAと共催となった。 ④ 地域の諸団体との連携を深め、地域運営学校として地域の人材を教育活動の中で有効に活用することができた。 ⑤ 学校運営協議会の委員が職員会議や研修会に参加することで、学校の課題や課題に対する取組の状況、教員の取組等に対する理解が深まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫校開校10周年に向けて平成30年度は地域運営学校として9年目を迎える。開校からの10年間の実績の確認と今後の方針の確認をする。 ・コーディネーターの位置づけ・活用理想としては、学校運営協議会のコーディネートのもと、学校コーディネーターを活用した事業(土曜の補習学習、漢字検定、算数・数学検定、英語検定等)を展開させたいが、学校運営協議会委員の皆様が学校コーディネーターの方も多忙であり、新たな事業に取り組むことが難しい状況である。 ・擁壁工事、プール建設の対応 平成29年10月の崩落による各種工事関連について進捗状況の連絡と報告を綿密に行うとともに、工事による教育活動の停滞がないように配慮する。
	愛宕小学校	10回	<ul style="list-style-type: none"> ① 子どもたちが「生きる力」をつけるために、保護者・教員だけでなく、学校を取り巻く人々との協力により、まず自己を大切に、社会への適応力を身に付けられるよう、多方面から取り組む。 ② 学校でのニーズを把握し、地域にある人材の活用をするための地域網を少しずつ作成していく。そのために、すでにある地域組織との連携が必要であり、愛宕会組織(PTA)、自治会組織、青少年対策地区委員会組織との連携をしながら、学校に協力し、さらに地域力の向上も見込む。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 家庭教育支援の視点から保護者同士、学ぶこと・つながることのできる場をいくつも用意 ・さくらの会(保護者の悩み相談会)、星とおひさまFikaキャラバンの実施、スクールカウンセラーによる講演会の実施、学校教員による講演会の実施(元都立南多摩中学高等学校校長 小林先生)等 ② 学校運営協議会の中に、いくつもの実行委員会が存在し、それぞれに活動を行っている。 ・漢字検定実行委員会、愛宕Camp実行委員会、放課後子ども教室推進委員会、図書ボランティア、ホームページ作成チーム、各種講演会、各種ボランティアの受け入れ態勢 	<ul style="list-style-type: none"> ① 保護者が学校に言えない小さな悩みを打ち明ける場があることで、不安を抱え込まずに子育てできる環境をバックアップできた。また、異学年保護者が集うことは、子育ての先輩から情報が得られ、先の見通しを付けられる事が保護者支援になった。 ② 各実行委員会の活動により、多角的な大人のつながりが広がり、目に見える成果が表れている。 ・愛宕Camp一父親同士がつながり、音楽チーム(青少年対策地区委員会の音楽フェスティバルに参加)、ホームページ作成チーム(運営協議会専用ホームページを作成)、愛宕の畑作成中(愛宕Campで有機野菜の試食) ・漢字検定一中学校に上がる前に漢字勉強に興味を持って取り組む事で、高校への入試に向けた準備ができる。 ・放課後子ども教室一地域の方や大学生ボランティアの参加により、お手玉、将棋やジャグリングなどにより興味を持って取り組むようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会が主体となって、地域にすでに存在する実働組織の横つなぎをしていき、地域ネットワークの構築に貢献していきたい。それは、地域に潜在的に持っている教育力を、学校運営全般に関わることにとどまらず、具体的な教育活動において発揮してもらうことなどの効果が期待される。保護者自身も、「自分は学校のためになっている」という体感を広め、学校への理解を深めることができるような機会を今後も作り続けていきたい。「相互理解」のために、柔軟な思考と、現状についての学びを継続していく。
	浅川中学校	11回	<ul style="list-style-type: none"> ・校長の学校経営計画に関する協議 ・各部の活動内容に関する協議 ・学校予算・決算に関する協議 ・学校支援に関する協議 ・創立70周年記念行事に関する協議など ・生徒会役員との懇談を通し、生徒の願いを具現化するための協議 	<ul style="list-style-type: none"> ・あさかわ支援の会による教育支援ボランティア活動 ・部活動支援プロジェクト ・学校評価や授業評価を学校運営協議会が実施・集計・分析・提言 ・協議会だよりの発行 ・SNS学校ルール定着に向けての学校支援 ・青少年対策地区委員会・PTA・教職員・生徒会と連携した年3回の小中合同あいさつ運動 ・学校林くりやまを活用した食育授業や環境学習 ・生徒会役員との定期的な懇談会を持ち、支援する取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方が毎日来校する学校になって、大人の目が行き届くようになった。 ・学校評価や授業評価を学校運営協議会が実施することで客観性が保たれ、学校改善が進んだ。 ・学校の状況や情報が地域に浸透した。 ・地域の諸団体との連携力が強まった。 ・学校運営協議会委員の協力で周年行事が円滑に進み、式典の取組が成功した。校訓が生徒のレガシイとなってほしい。 ・生徒会の要望を聞き、学校運営協議会として市に要望書を提出した。市から前向きな回答が得られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の委員後継者の育成 ・担当教職員以外の教職員の理解を深めること ・活動がマンネリ化しないように常に改善を求め協議・実践していくこと ・市教委の傍聴者が2人あった。まだまだ、傍聴者が増えるようPRや啓発活動を推進していく必要がある。 ・生徒会役員との交流により、生徒と地域の距離が近くなった。具体的な成果が出れば信頼関係も生まれ、なお活動が発展すると考える。 ・英語検定の実施に向けて審議する。 ・学校提案型予算による取組を支援することで、学校運営協議会の活動がさらに認知されるようにしたい。

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成22年度指定	松本中学校	12回	<p>①教職員の働き方の改善</p> <p>②地域防災会議の開催。生徒が加わった防災訓練の実施</p> <p>③夏季休業中及び放課後の学習教室</p> <p>④学校運営協議会だよりの各学期発行</p> <p>⑤教職員との面談による聞き取りや人事について話し合い。</p> <p>⑥学校運営協議会による保護者アンケートの実施と結果の検討</p> <p>⑦LGBTについての研修会と地域での対応のあり方</p> <p>⑧学校視察</p> <p>⑨英語検定・漢字検定・数検の実施</p>	<p>①教職員の働き方の改善についての検討。部活動のあり方についても検討</p> <p>②地域防災会議の開催。生徒が加わった防災訓練の実施</p> <p>③夏季休暇及び放課後の学習教室</p> <p>④学校運営協議会だよりの各学期発行</p> <p>⑤教職員との面談による聞き取りや人事について話し合い。</p> <p>⑥学校運営協議会による保護者アンケートの実施。今年度は小学校と連携して同じ時期に実施</p> <p>⑦LGBTについての研修会を提案・実施</p> <p>⑧学校視察</p> <p>⑨英語検定・漢字検定・数検の実施</p>	<p>①ノー残業デイなどを提案し、部活動については教員と熟議を開催した。</p> <p>②地域防災会議も定着し、地域と合同の防災訓練に生徒35名が参加した。</p> <p>③夏季学習教室・放課後学習教室ともに参加者が大幅に増えた。保護者にも期待されている。</p> <p>④学校運営協議会だよりの発行により、保護者や地域に広報活動ができた。</p> <p>⑤教職員の異動の多かった今年度は、特に協議会と教職員の面談が重要であった。教職員を知る機会となり、職員室の様子や新年度人事の参考となった。</p> <p>⑥協議会アンケートで保護者への周知の現状や課題を知る事ができた。3校で同じ質問を設定したので、各校の比較ができた。</p> <p>⑦性的マイノリティの理解を教職員と協議会委員で共有することができ、今後は保護者や児童生徒への啓発を考えたい。</p> <p>⑧私立明星小学校(府中市)へ働き方改革の周知に向けた取組の視察を実施し、本校の運営に生かせるような取組を学んだ。</p> <p>⑨各種検定は運営方法を改善し、生徒の学力向上に寄与している。</p>	<p>①部活動のあり方を含めた、教員と生徒のワークライフバランスについて検討を続ける。</p> <p>②松木小、長池小との広域防災訓練へ向けての連携と組織作り</p> <p>③学習教室の地域講師の確保や地域支援スタッフの増員が難しい。学校を理解し、生徒に寄り添う人材が必要</p> <p>④読みたくなる協議会だよりの作成につとめ、活動の周知や地域スタッフの確保につなげる。</p> <p>⑤教職員との面談を続行し、しっかりした人事具申を続けたい。</p> <p>⑥アンケート内容を精査し、学校運営の参考としていきたい。</p> <p>⑦性的マイノリティを含む支援が必要な子どもについて、地域などへの啓発を検討する。</p> <p>⑧3校合同の視察は、委員の共通理解を深めるために大切であるので、継続する。</p>
平成23年度指定	長房小学校	12回	<p>①学校運営協議会が関わる行事「地域夏祭り(盆踊り)」、「CS子ども夏祭り」、「算数教室」、「人形劇」、「川の学習」、「道徳授業地区公開講座」、「子ども祭り」、「三校地域交流会」、「焼き芋」、「どんぐり笛づくり」、「昔遊び」等の実施計画について</p> <p>②長房ファームでの野菜作りや出店計画と準備について</p> <p>③児童の基礎学力の向上について</p> <p>④周年事業の取組について</p> <p>⑤放課後子ども教室(すまいる)発足への協力について</p>	<p>①学校運営協議会が関わる各行事 ・「地域夏祭り(盆踊り)」、「CS子ども夏祭り」、「算数教室」、「人形劇」、「川の学習」、「道徳授業地区公開講座」、「子ども祭り」、「三校地域交流会」、「焼き芋」、「どんぐり笛づくり」、「昔遊び」等</p> <p>②長房ファームでの野菜作りと給食への食材提供</p> <p>③児童の基礎学力向上支援</p> <p>④周年事業の取組</p>	<p>①地域・保護者・学校と連携した取組が実施できた。地域夏祭りやCS子ども夏祭り、算数教室など児童の参加人数が増加した。</p> <p>②地域の夏祭りに学校運営協議会として出店し、広報活動につなげた。広報誌「山椒」を年4回発行し、地域内にも配布した。長房ファームで収穫した野菜を給食の食材として提供できた。</p> <p>③教材整理棚及び各児童に整理用ファイルを寄付し、算数の朝学習を支援した。</p> <p>④周年記念誌、横断幕、校旗、冠頭等周年事業に必要な環境を整えた。</p> <p>⑤放課後子ども教室設立のための推移委員、学習アドバイザー、安全管理員等の組織を整え、10月から開催することができた。</p>	<p>・地域・保護者・学校との連携をさらに密にして、スムーズな企画・運営を図る。</p> <p>・ファームで使用している土地は開発予定に伴い、8月末までの使用と決まっている。その後の継続使用を希望する。</p> <p>・開校50周年記念事業へ対応</p>
	柏木小学校	11回	<p>①学校と地域の距離感を縮め、地域の人材を発掘し、子どもの学力と生活の両面を組織的に支えていくことができるようにしていくための人材バンクの作成</p> <p>②「学校の役割」、「地域の役割」、「家庭の役割」を明らかにし、子どもの学力と生活の両面を組織的に支えていくことができるようにしていく。</p> <p>③学校便り、学校運営協議会だより、ホームページ等を活用し、地域運営学校の趣旨や活動内容について積極的に周知していく。</p> <p>④地域の歴史と文化について知る。</p>	<p>①学校運営協議会のメンバーが学校コーディネーターとも連携し、青少年対策地区委員会の「おはようコミュニケーションデー」、かかしサタデースクール「親子で竹の子掘り」、自治会主催の「地域のお祭り」の各実行委員の方々と顔の分る関係を築き、交通安全や防犯、あいさつの始まる規範意識の定着、地域行事における子どもの活躍の場所をコーディネートしている。</p> <p>②「しゃべってみよう」という企画で、学校運営協議会と教職員とサポーター等様々な立場から学校を支えていただいている方々同志で日頃の児童の様子を語り合いながら、未来に向けて、イメージをふくらませ、子どもたちのためにそれぞれの立場からできそうなことを語り合っている。</p> <p>・5年生児童と地域の大人との「しゃべってみよう」を開催し、南大沢地区の良さと改善点について話し合う機会を設けた。</p>	<p>①地域人材の一定の発掘に成功し、学校に対する今後の協力を取り付けることができた。</p> <p>・学校運営協議会が中心になって、子どもたちを見守る体制づくりができた。</p> <p>②地域の大人と子どもたちが身近に話し合う機会を設けたことで、地域について共に考えることができた。</p> <p>・学校の畑を地域に開放することで、地域の方が学校を訪れ、地域と学校のつながりが深くなった。(畑の活動や園芸ボランティアの活動)</p>	<p>①地域人材バンクの活用(学習に生かせる人材バンクとして教職員の活用を図る。)</p> <p>・地域人材を登用して、学習支援ボランティアとして児童の学力の向上を図る。</p> <p>・学校で学んだことを地域で生かす体験をさせることにより、自己肯定感や自己有用感を高めていくようにする。</p> <p>②5年生児童との「しゃべってみよう」は、児童にとっても地域の大人にとっても新鮮な活動となった。次年度以降も引き続き継続する機会としていく。</p>

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成23年度指定	南大沢小学校	11回	<p>①学校の問題・課題を教職員と学校運営協議会委員や評議員がともに話し、考える場を設定し、学校ではどんな支援を必要としているか、必要な支援に学校運営協議会委員がどのように応えていくが明らかにしていく。</p> <p>・児童減少に対して、学校についての広報活動をいかに活発にしていけるか。</p> <p>②同一地域の小中3校(南大沢小・柏木小・南大沢中)及び地域の幼保育園との連携をどう具現化するか。</p> <p>・八王子市の施策としての小中一貫校への移行について、どう対応していくか。</p> <p>③学校運営協議会と学校コーディネーターが中心となり地域住民等の教育活動への幅広い参画を促進し、学校と連携して的教育的人材開発を行う。</p>	<p>①地域連携の重要性、学校を核とした地域づくりをする意識の向上、学校を地域のものとする考え方の浸透、地域内及び、学校と地域の連携強化を実現する方法としての学校園の活用工夫。幼保育園への農園の貸し出しと幼児と児童の交流。</p> <p>②児童の郷土愛が育まれ、学校や地域に愛着をもてるようになり、地域の方の教えを得ることで、児童が地域の一員としての自覚をもつ。地域の方をゲストティーチャーとして招き、戦争体験を聞いたり地域の昔遊びや稲作に関わる様々な体験活動を実施したりする。</p> <p>③学校運営協議会が、学校説明会・新1年生保護者説明会で学校の魅力を紹介する。</p>	<p>①教員から直接教育活動に必要な地域の教育的人材について聞き取り、地域の組織等にも働きかけ、人材を紹介してもらい、ゲストティーチャーや学習ボランティアとして学校に関わってもらった結果、行事を含めた教育活動に関わってくれる方が多くなった。</p> <p>②青少年対策地区委員会や地域住民の学校ボランティアとも連携しながら、幼保育園児童が校地内でサツマイモづくりを行った。園児が本校の様子を直に見て、児童と触れ合うことで安心して入学を迎えるとともに、園児保護者の学校への理解が深まった。</p> <p>③児童数の減少傾向が進む中、近い将来小学校へ入学する児童やその保護者に対して、学校運営協議会や地域から見た学校の魅力を学校運営協議会が発信することで、学校自身が発する情報では理解しきれない本校の魅力を知らせた結果、学区内に住む学齢児童のほとんどが、本校への入学の意思を示してくれた。更に、学区外からの入学希望者も出てきた。</p>	<p>・学校運営協議会と学校コーディネーターが中心となり地域住民等の教育活動への幅広い参画を促進し、学校と連携して的教育的人材開発を行う。</p> <p>・取組状況や学校の魅力・放課後の児童の受け皿について、未就学児の保護者を中心に多くの人に発信することで、小規模校での学校教育の利点を理解してもらい、児童減少傾向に対応する。</p> <p>・引き続き、教職員が直接学校運営協議会委員と話し合う場を設け、学校の課題を共有した上で、地域の教育的資源の発掘と学校教育への参画を促進する。</p> <p>・ホームページや広報誌等を活用したり、学校説明会・新1年生保護者説明会で学校運営協議会が、学校の魅力を紹介していく。</p>
	松木小学校	11回	<p>①学力向上を目的に、授業でのつまづきを少しでも解消するために、放課後に教員以外の人材による補習の機会を設け、運営等を学校運営協議会で行う。</p> <p>②目標をもって学習に取り組む姿勢を養うことを目的に、漢字検定を実施し、運営を学校運営協議会で行う。</p>	<p>①放課後学習会 地域の塾と連携し、週1回学習会を実施し、補習コースと自学コースに分かれ、学習する環境を整える。補習コースにおいては、タブレットを活用し、より効果的な個別指導を行う。</p> <p>②漢字検定 保護者・地域の方によるボランティアを募集し、試験監督等を分担する。成績上位者は朝会で表彰し、意欲の向上を図る。</p>	<p>①2～6年生の希望者対象で、130名が参加し、回を重ねるごとに主体的に学習に取り組む姿勢が身に付いてきた。わからないところをその場で指導を受けられるので、授業でのつまづき解消の一助になっている。</p> <p>②全学年の希望者対象で、180人が参加し、各自が目標とする級に挑戦した。漢字検定を目標に、日ごろの漢字学習に意欲的に取り組む児童が増えてきた。</p>	<p>①タブレットの台数を増やし、より多くの児童が、学習状況に応じた個別指導を行えるようにする。週1回では十分な指導ができないため、週2回程度、実施できる方法を模索中である。講師人数の確保が難しく、指導が行き届かないことがある。</p> <p>②受検者が増えると運営者の負担が大きくなるため、役割分担できる人材確保が課題である。</p>
	長池小学校	12回	<p>①第1回学校運営協議会主催漢字検定について昨年度までの課題であった学校をサポートするための学校運営協議会主催の活動として今年度は漢字検定を実施していく。</p> <p>②学校運営協議会アンケートについて今年度は松木中、松木小と同時期に同じ内容でアンケートを実施していく。</p> <p>③学校運営協議会主催の保護者向け情報モラル講演会 松木中、松木小からも参加者を募り、保護者向け講演会を実施していく。</p>	<p>①平成29年10月に第1回漢字検定を実施した。参加児童139名、ボランティア等スタッフ22名で円滑に運営することができた。</p> <p>②平成29年11月中に学校運営協議会アンケートを実施した。設問は8項目。最後の項目は記述式で意見とともに改善点も記入するように設定した。回収率は73%であった。</p> <p>③平成29年3月に合同会社「ロジカルキット」代表の下田太一氏による「気づいていますか？ケータイが変えた子どもたちの生活」の演題で保護者向けの情報モラル講演会を実施した。保護者の参加は35名(含む他校の保護者3名)であった。</p>	<p>①初めて実施した漢字検定であったが、想定以上に申込者も多かった。以前から他の場所で漢字検定を受検している児童もいたが、今回初めて受検する児童も多く、受検に向けて自主的に学習に取り組んでいる様子もうかがえた。</p> <p>②初めて実施した協議会アンケートで回収率も比較的良好だった。記述の中には学校運営協議会の活動について自ら積極的に情報収集したり、見ていきたいというような建設的な意見もあった。繰り返し実施していくことで、学校運営協議会の活動について周知していくことができると思われる。</p> <p>③保護者向けの講演会は周知する期間が短かったので、参加者は35名であったが、この参加した保護者から周囲の保護者へ拡散していく効果を期待したい。</p>	<p>①平成30年度も継続して漢字検定を行うことで、児童や保護者への認知度も上がり、受検する児童の増加も見込めると考えられる。学校運営協議会のこうした活動が、学校での漢字学習に与える影響も少しずつ大きくなってくと期待したい。</p> <p>②成果にも書いたが、協議会アンケートを実施することで保護者の協議会への認知度の高まりや活動内容の周知につながっていく。平成30年度も松木中、松木小と合わせて実施していきたい。</p> <p>③保護者向けの講演会とともに、高学年児童向けの講演会も実施できると、相乗効果で意識の高まりを期待できると考えられる。そのあたりも含めて、継続して議論していきたい。</p>

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成23年度指定	南大沢中学校	9回	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営の状況についての説明、校長の意見聴取、学校運営協議会委員からの助言等 ・おはようコミュニケーション係、しゃべってみよう係、コミュニケーション通信係からの連絡・報告 ・毎月1回のおはようコミュニケーションデーの実施 ・年1回のしゃべってみようの企画(今年度は柏木小で実施) ・コミュニケーション通信の作成 ・小中一貫校に向けての話し合い ・人事に関する意見聴取 	3校(柏木小・南大沢小・南大沢中)の学校運営協議会が連携して、おはようコミュニケーション、しゃべってみよう、コミュニケーション通信の企画・実施・運営をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年対策地区委員会や地域の方と協力して、「おはようコミュニケーションデー」を実施することができた。「おはようコミュニケーションデー」は地域と学校を結び付ける取組として、また子どもたちの健全育成の取組として効果をあげている。 ・「しゃべってみよう」は、柏木小で行い、地域の方と児童が、「よりよい地域づくり」について話し合う機会となった。南大沢中の学校運営協議会として参加をした。 ・コミュニケーション通信を発行して3校の行事を地域住民に伝えることで、地域住民に地域の学校としてどんな取組を行っているか伝えることができた。 ・小中一貫校について意見を聴取することはできた。 ・人事に関する意見聴取を行い公募を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育活動を伝える場面が多く、学校運営協議会として具体的にどんな取組を行うかについてはこれからの課題である。
平成24年度指定	横山第一小学校	12回	<ul style="list-style-type: none"> ①創立120周年に関わる取組について ・11/11の記念コンサート、記念式典、祝賀会についての企画・運営に関する協議 ・愛唱歌創りとパネル設置について、植樹祭やタイムカプセルの取組に関する協議 ②校務分掌と学校運営協議会とが連携した、学校の教職員と保護者・地域の協力者を含めた専門部会の組織的な運営 <安心・安全部会> ○地域防災訓練の企画・運営・実施について ○学区内のトンネル工事に伴う対応について <学び部会> ○放課後子ども教室の充実について <子育て部会> ○関係機関等との連携した支援の在り方について 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校・地域・保護者と協働した創立120周年の取組の充実 ・専門家と児童とが協働した愛唱歌づくりの取組と、学校運営協議会とPTAとの協力による愛唱歌のパネルの設置 ・学校運営協議会委員と連携した記念植樹の式典の運営 ・学校運営協議会委員による地域学習の出前授業の実施 ・学校の委員会活動とPTA花の会ボランティアの協働による120周年記念花壇(プランター)作り ②学校の校務分掌と学校運営協議会の専門部会とを連携させた組織的な運営 ・3つの町会・自治会と連携した学校を避難所とした地域防災訓練の実施と、トヨタ東京自動車大学の学生ボランティアの参画 ・学校運営協議会が主体となった、年間2回の漢字検定、親子キャンプ、どんど焼きの実施と、放課後子ども教室を充実させる取組(学習教室・スポーツ教室の企画・運営) ・学校運営協議委員(子育て部会担当)と学校教職員、スクールカウンセラー、子ども家庭支援センター、地域養育施設職員、学童、幼稚園・保育園園長等が参画した年間3回の支援会議の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校運営協議会が核となり、学校運営協議会委員の役割や専門性、地域とのつながりを生かし創立120周年に関わる一連の取組を充実させることができた。特に、地域とのつながりが深い学校運営協議会委員ならではの人脈から、120周年と関連させた地域学習の講師の発掘ができ、児童に豊かな学び提供することができた。また、式典の運営への保護者の配置計画やPTAが主体となった祝賀会の企画・運営などPTAと連携させながらスムーズに進行させることができ、当日は120名を超える来賓や地域の方をお迎えした盛大な式典を執り行うことができた。この創立120周年の取組を通して、地域との結びつきをより強くすることができたと考えられる。 ②2年前から実施している地域防災訓練では、館町町会と、館町団地、ゆりのき台自治会を含めた3地区の防災担当者や学校関係者と6月より防災会議を定期的に開催し、訓練内容や役割分担、時程等について検討を行った。 12月の防災訓練では、3地区の児童と保護者、地域住民ら160名以上が参加した合同訓練が実現できた。また、当日はトヨタ東京自動車大学の学生13名がボランティアとして参加し、地域での自助意識を高める効果もあった。 ・放課後子ども教室では、2学期後半より地域の学習支援者を得ることができ、定期的(毎週水曜日)に学習教室を開催することができた。開催回数も昨年度比1.2倍となり、子どもたちの放課後の居場所だけでなく、学習の場として定着しつつある。 ・年間3回の児童及び保護者の支援会議では、各専門機関が役割分担しながら支援の方策や方向性について検討し、組織的に対応している。これまで様々な事案も、大きな問題に発展することなく適切に対応することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①創立120周年でできた地域との結びつきを生かしながら保護者・地域住民の学校教育への参画を促し、地域に開かれた教育課程を目指す。 ・保護者ボランティアの拡充と、地域人材の発掘 ②中学校地区と連携させた地域防災訓練の実施、中学生や大学生を活用した地域防災訓練の充実 ・放課後子ども教室推進委員会の定期開催と保護者ボランティアの拡充 ・各関係機関との連絡・調整と、会議日時の設定

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成24年度指定	上川口小学校	6回	①教育課程の行事、学力向上、心の育成、稲作、心の育成「道徳授業地区公開講座」講師、「サマースクール」等、子どもの学力、教員の専門性向上のための研修について ②市制100周年への取組について ③安全安心な町づくり、地域防災、子どもの居場所作り「放課後子ども教室」について	①学力向上へ向けてのサマースクールの実施、道徳授業地区公開講座を共催、ピアニストを招いてのミニコンサートを開催するなど、学校運営協議会が強く関わってできた。地域ボランティアによる踊りの指導を取り入れ地域参加型運動会に貢献できた。 ②甲冑隊の行列を行うなど、市制100周年記念イベントを地域の方参加で盛大に実施できた。 ③地域防災会議を開き、学校を避難所とした運営について検討した。	①学校運営協議会が主体となって取り組めたことは、学校教職員の意識や地域住民の意識の向上が高まり、児童育成への一体感が醸成されている。講師謝金により、充実した講演会やピアノコンサートが開催でき、豊かな心の育成、キャリア教育に貢献できた。 ②100人をを超える多数の地域関係者が参加し、八王子の歴史を感じさせるイベントが開催できた。 ③地域防災への連携が見えてきた。放課後子ども教室は、学校や地域の実態に即して考えていくことの見通しがもてた。	①確かな学力や豊かな心を身に付けさせるために、地域で何ができるかを考え取り組んでいくことが課題である。校長の学校経営計画「地域と共に歩む学校」の実現に向けて、学校と地域が連携した取組をさらに進めていきたい。 ②学校避難所開設は喫緊の課題である。地域の自主運営を目指した検討が必要である。
	恩方中学校	9回	①子どもの学力向上について ②教育活動の充実、学校運営協議会の活動周知について	①「放課後基礎教室」を開催し、個に応じたきめ細かな学習支援を行う。 ・英語の力を測定する検定を準会場として実施する。 ・子どもの健全育成に向けて交通安全見守りや防災教育に取り組む。 ②夏季休業日を利用して、地域住民と生徒、教職員による教育環境の整備を行う。 ・ホームページ等を通じて、地域運営学校の趣旨や活動内容について周知する。	①放課後基礎教室の整備が整うとともに、子どもの参加人数が増加した。 ・英語検定への関心が高まるとともに、合格者が増加した。 ②地域の関連団体との連携の元に取り組むことができた。 ・子どもに学校を大事にする気持ちを育ませるとともに、地域における世代間交流を図ることができた。 ・報告や便りを通して、活動内容を周知することができた。	・学習支援に対する取組の再構築とその充実 ・教育環境の一層の整備 ・地域連携の推進
	由木中学校	11回	・創立70周年記念事業 ・学校行事について ・学校評価について ・広報誌について ・補習教室について ・予算について ・学校経営計画について ・教育課程について	運営協議会を4つの分科会に分けて活動 ①広報活動部会…地域人材の活用による広報活動の推進 ②美化環境部会…地域人材の活用による環境整備の推進 PTAとともに花壇整備 ③読書活動部会…読書活動の推進 ④教育支援部会…学習支援の推進	①広報活動部では、学校だより「運営協議会だより」を載せ、広く周知することができた。 ②美化環境部会では、PTAと連携し、花壇の整備を行い花がある学校になった。 ③読書活動部では、ビブリオバトルを行ない生徒が2月に全国2位になった。 ④放課後の自習教室(楽習会)を開催し多くの生徒が参加した。	・学校の行事等も重なるところがあり、ボランティア活動の参加が多少少なかったため、学校行事との調整が必要 ・放課後の楽習会をどのように継続的に行うか。 ・ビブリオバトルは、専門性があるため特定の先生に負担がかかってしまう。
平成25年度指定	第二小学校	8回	・学校運営の参画及び評価 ・学校・地域合同防災訓練の計画及び実施 ・保小中連携の充実 ・学力向上をめざした放課後及び補習学習の実施	①7月の学校運営協議会において、12町会長・八王子市防災課職員・第四中・光明第一保育園が参加し学校・地域合同防災訓練計画の協議。10月の学校・地域合同防災訓練の実施 ②第四中学校との保小連携に向けた計画及び実施 ③光明第一保育園との保小連携に向けた計画及び実施 ④学力下位層児童の底上げをめざした放課後及び補習学習の実施	①12町会長、市防災課職員、八王子消防署、第四中、光明第一保育園が参加した学校・地域合同防災訓練を10月に実施できた。地域や保護者より「第四中生徒の活躍ぶりが頼もしかった。ありがたい。」「とてもよい取組である。来年度も引き続き実施してもらいたい。」との評価を得た。 ②第四中学校と校内研究会を通して、学力向上・基本的な生活指導習慣について協議を行った。中学校へのスムーズな移行を図ることができた。 ③光明第一保育園との協議会を通し、保小連携の重要性を互いに共有することができた。 ④基礎学力定着を図るために、放課後及び補習学習を年間40回実施した。特に4年生の四則計算定着度では16ポイント上がった。	・第四中学校生徒と12町会を中心とした学校・地域合同防災訓練のさらなる充実を図る。 ・光明第一保育園による本校教員の保育体験教室を実施する。 ・さらなる学力向上をめざした学校運営協議会委員による放課後及び補習学習の充実を図る。

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成25年度指定	高倉小学校	11回	<p>①高倉小学校の学力面における実情や課題、今後の指導・支援体制のあり方等について協議を行う。学校においては、今後の補習的支援の場作りの見直しについてを課題として示す。地域人材をどう確保し、協力を得るか協議会全体としての課題として共通理解した。家庭においては、家庭での学習習慣の未定着の課題が大きく、その方策を検討した。</p> <p>②放課後等の「子どもの居場所づくり」は、市全体の課題でもあり、本校においても保護者の関心やニーズが高い事項でもある。現在週一日実施の放課後子ども教室の今後のあり方や、サタデースクール実施におけるサポート体制の構築が課題となった。</p> <p>③いじめや児童相互のトラブル、地域における交通安全の状況等について協議した。</p>	<p>①ここ数年取り組んでいる「漢字検定」は、地域の方々の協力を得ながら、本校の取組として定着してきた。また、生活習慣や学習習慣の定着を図るための「がんばる！たかくらキッズ」の取組も、児童や各家庭に定着できてきた。</p> <p>②昨年度までのスタッフがいなくなってしまった状況であったが、学校運営協議会及びPTAの協力により、年7回のサタデースクールを開催することができた。JAXAの方をお招きするなど、内容的な充実も図れた。</p> <p>③いじめやトラブルについて、学校運営協議会の場において、校長から詳しく情報提供をする場を設けた。学校便り等についても「いじめ」の実状について、隠すことなく発信した。そのことにより、学校運営協議会としての対応について関心が高まった。</p>	<p>①漢字検定では、参加者が徐々に増えており、合格することができた児童も増えてきた。児童及び保護者の家庭学習の目標の一つとなっている。地域の方がスタッフとして参加することで、児童の姿を見て、学校の今の様子についての関心をもっていただくことができた。</p> <p>②サタデースクールは児童の参加も多く、活気あるものとなった。従前のスタッフも可能な範囲で支援するなど、人の連携の輪が広がった。</p> <p>③いじめに限らず、地域におけるトラブルや交通安全上心配な状況など、活発な情報提供を得ることができた。交差点の信号や横断歩道等の問題点について取り上げ、行政機関に働きかけをして、改善を得ることができた。素晴らしい地域の力である。</p>	<p>①放課後または長期休業日における補習的支援の場を、学校運営協議会が中心となり、進めていきたい。人材の確保(地域・隣接高校や大学等)、場所、教職員との連携、PTAの関わり等の課題をクリアしていく。</p> <p>②放課後子ども教室の開催回数を、現在の週1回から週2回以上にしていくことを目指す。シルバー人材の状況や開催をサポートする組織の再構築等が課題である。雨の日に可能な活動等も含め、実施を目指した取組を進めていく。</p> <p>③学校で開催する「セーフティ教室」や「道徳授業地区公開講座」において、保護者対象の意見交換会等への参加が非常に少ない。同時に意識の低さを強く感じる。学校運営協議会の参画により、意識向上のための働きかけを進めていくことが必要</p>
	高嶺小学校	12回	<p>①国、都、市の学力調査等の結果から、学力向上を図っていく必要がある。算数の基礎的、基本的内容を確実に習得し、学力の向上を図っていくために、放課後補習教室「くすの木教室」をさらに充実させていくこと。国語の言語力については、漢字検定を年間2回開催することを通して、児童に漢字の読み書きに対する興味、関心を高め、言語力の向上を図ること。</p> <p>②地域の中で、子どもたちの豊かな感性と自己肯定感、自己有用感を育むために、高嶺富士や花壇、池の手入れ等を、保護者、地域と連携しながら児童と共に活動していくことを計画的に行っていくこと。</p>	<p>①放課後補習教室「くすの木教室」は、月曜日は前半(14時30分～15時)3年生、後半(15時15分～15時45分)4年生、金曜日は前半2年生、後半5、6年生を対象に6月から開始し、翌年3月まで、約50回開催した。教材は、東京ベーンシック・ドリル算数を使用し、地域の方々に指導員になっていただき、ドリルの丸付け等をしていただいた。</p> <p>②「親子草取り」、「環境美化大作戦」として、子どもたちと保護者、教育支援ボランティア、世話人会、地域の方たちで草取りを行った。「焼き芋大会」を実施するために、事前に教育支援ボランティアの方々の御協力をいただきながら薪の準備をしたり、子ども達が落ち葉を集めたりした。学校のシンボルとしての「高嶺富士」に、子どもたちと教育支援ボランティアで芝桜の苗の植え付けをした。今年度創立40周年を迎えたこともあり、より美しい花壇にしようと、地域の方々と児童と一緒に花の苗の植え替えをする取組を行った。八王子市市制100周年記念植樹として「コヒガン」の苗木を児童と地域の方々と共に植樹することができた。</p>	<p>①一人ひとりの児童が今までに学習した算数の既習事項の中で、診断テストに基づいて理解が不十分なところのプリントを選択して取り組んだ。指導員の方々に丸付けをしていただき、間違えたらやり直しを行い、合格印をもらえるまで繰り返し学習した。このことを通して、児童は苦手意識を克服しながら、成就感や達成感を感じられるようになった。児童からは「算数が好きになった。」、「分かりやすく教えてもらって嬉しかった。」、「計算がはやく解けるようになった。」、「計算力がついた。」等の感想が聞かれた。</p> <p>②環境美化活動を通して、子どもたちが環境を美しくすることに関心を持つとともに、学校、家庭、地域社会が協働した取組を行うことで、地域を生かした活動がよき思い出となり、自己有用感を育て、地域に誇りと愛着をもつことができた。</p>	<p>①現在は、地域の指導員の人数の関係で、各学年週1回ずつ実施している。今後も、指導員の再募集を行い、指導員の人数を増やしていく。指導員の人数を増やすことができれば、各学年週2回の実施を検討する。また、算数だけでなく、国語の導入についても引き続き検討を重ね、年度途中、または平成31年度からの国語の導入を目指していく。くすの木教室に対する児童アンケートを分析し、より良いくすの木教室にしていく。指導員を増やしていくことと算数以外の他教科にも取り組めるようにしていくことが今後の課題である。</p> <p>②来年度も今年度の実績を参考に実施する。さらに、校内の塗装補修を行い、校内環境の整備について取り組む。子どもたちと地域の方々が一緒に活動しながら、美しい環境作りを推進していく。</p>
	ひよどり山中学校	10回	<p>・本校の教育活動に対する理解と協力を図るため、学校行事への参観・参加等を学校運営協議委員・PTAと連携し、地域・町内会等に積極的に働きかけた。</p> <p>・学校コーディネーターと学校運営協議会委員との連携により、学習ボランティア等を募集・確保し、その活用等について充実を図るよう協議して取り組んだ。また、総合的な学習の時間に実施する農業体験学習の一層の充実のため教職員、農業アドバイザーとの連携、協力、打合せを行った。</p> <p>・本校、開校40周年記念行事や関連事項について協議を行い、10月に記念式典実施と記念紙を発行した。</p>	<p>・地域の人材を生かし、地域に根ざした地域と協働する特色ある学校教育を実現することを目的に、「学力向上部」、「農業振興部」、「地域支援部」を設置し、協議を重ね、地域運営学校づくりに取り組んでいる。</p> <p>・学力向上部・・・生徒の学力向上・支援を目指し、定期考査前に放課後学習を実施した。また、夏休み学習教室を5日間実施した。</p> <p>・農業振興部・・・総合的な学習の時間で農業体験学習を支援・充実させる。</p> <p>・地域支援部・・・学校施設を利用し、学校と地域との連携を深める。</p>	<p>・年度末に実施した、学校評価アンケートや地域諸会議等の報告から、本校がコミュニティースクールとして青少年対策地区委員会と連携して取り組む行事(ひよどり山音楽祭・クリーン作戦等)に、多くの生徒・地域の方が参加した。</p> <p>・学力向上の取組として、夏季休業期間と放課後の学習教室が安定的に実施できた。また、授業等での学習補助ボランティア(技術科木工学習補助や国語科書写指導補助等)による支援が得られた。</p> <p>・開校40周年記念式典実施と記念紙の発行を通して、本校の創立から現在までの歩みを生徒・保護者・地域・関係者の皆さんと再確認し、新たな時代に向けた教育活動づくりへの意欲を喚起することができた。</p>	<p>・総合的な学習の時間に実施する農業体験学習では、学校運営協議会委員の働きかけにより、年間を通じて農業アドバイザーが確保できたが、高齢化による時期を担うアドバイザーへの引き継ぎが課題である。</p> <p>・学校と連携して取り組む行事等の活動計画(青少年対策地区委員会行事、自治会行事、学力向上のための学習教室日程、学習支援計画等)について、年度当初に一覧にまとめ「見える化」を図り、具体的な活動に向けて準備・共通認識を深める等、行動連携を推進し充実を図りたい。</p>

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題
平成25年度指定	由井中学校	<ul style="list-style-type: none"> 自治会と連携した防災支援部会による避難所運営・炊き出し訓練を引き続き実施する。(運営面の分担) 教育支援部会では、スーパーサイエンス授業(科学実験教室)を行うに当たり、企業との打ち合わせを実施する。ファンドを維持させ生徒達の部活動や教育機器に有効に活用できるようにする。 地域連携部会では、各町会自治会で行われる、地域行事(夏祭りなど)に生徒が参加できるように調整する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①由井中学校で実施の防災訓練で本校生徒が全員参加 ②教育支援部会で計画していたスーパーサイエンス授業(科学実験教室)を6月に実施、今回海洋に関すること、3Dプリンタなどさらに範囲を広げて実験授業を行った。ファンドの実施 ③地域貢献や行事への積極的な参加 	<ul style="list-style-type: none"> ①由井中学校が全校参加の防災訓練では、生徒が地域の担い手として中心的に動き多くの成果を収めることができた。 ②生徒全員が興味、関心を持つような科学実験授業を行えた。ファンドについても準備ができ動き出している ③アンケートで由井中生の自己有用感が有意に高い結果が得られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①2年前、町会・自治会が連合で行った防災フェスタを、由井中学校の学区の町会・自治会連携して行うことが今後できるか。 ②30年度は少し幅を広げて科学実験教室を行いたい。ファンドを有効的に使い、部活動や学校で必要なものに使用していく。 ③地域貢献の為、行事への積極的な参加を発信しているが、地域が中学生を受け入れやすい体制づくりを構築する。
	中山中学校	<ul style="list-style-type: none"> 活動の組織を「美育」、「学習」、「環境」、「安心・安全」としての各活動の取組について 地域と連携した防災訓練の実施 学校運営協議会主催の英語検定の実施 青少年対策地区委員会、PTA杉の沢会と連携した環境整備 学校運営協議会だよりの発行 	<ul style="list-style-type: none"> 「美育」…花一輪活動を継続して行い、月に一度各学級等へ花の配布 「学習」…学校運営協議会が主催し、地域人材を活用した「英語検定」の実施 「環境」…青少年対策地区委員会、PTA杉の沢会と連携した地域美化活動の実施、1年飯盒炊さんへの支援 「安心・安全」…地域と連携した総合防災訓練の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 4つの組織を見直すことにより、活動の焦点化が図られ、活動がしやすくなった。また、他の活動への協力・支援がしやすくなった。 今年度初めて、総合防災訓練を地域と連携して行ったが、大きな取組ができ、次の方向性への足掛かりとなった。 3校(中山小、高嶺小、中山中)の学校運営協議会委員が集まる3校合同学校運営協議会を年間3回開催することにより、地域としての連携を図ることが確実に進んできた。 	<ul style="list-style-type: none"> 花壇等の植え替え時ではPTA杉の沢会と連携し、生徒の関わり強化を図る。 学校運営協議会が主催する検定に漢字検定も加えて実施していく予定 総合防災訓練の生徒の関わり方等の研究を今後も継続して行い、修正を図る。
平成26年度指定	第五小学校	<ul style="list-style-type: none"> ①五小アートトリエンナーレ(展覧会)に向けて ②市制100周年事業への取組について ③地域合同防災訓練の実施に向けて ④放課後子ども教室について 	<ul style="list-style-type: none"> ①鑑賞だけではなく、造形活動を取り入れた内容にする。 ②学校運営協議会委員の方々に協力してもらい、講演会や桜の植樹式を実施する。 ③児童と保護者、地域の方々と合同で開催する。 ④雨の日や長期休業中にも実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①保護者や地域住民が子どもたちとともに楽しく活動する体験を通して、学校教育の理解が深まり、教育活動への参加意欲が高まった。また、建築家から学ぶ貴重な機会を通して、子どもたちが夢や未来への展望を高めていくことができた。 ②無事に実施することができ、市制100周年に対する意識をより高めることができた。 ③合同では2回目の実施になるが、参加者も防災に対する意識を高めることができた。 ④雨の日や長期休業中は、原則室内での活動になるが、ルールについて、児童はもちろん教員や管理員にも周知徹底していくことを確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> ①保護者や地域からも高評価をいただくことができたので、来年度も6年生の造形活動は実施していく。 ②植樹した桜について、忘れないよう開校記念日等を利用し、成長を見守っていく。 ③毎年、雨の日の実施の可否について課題となっているので、引き続き検討していく。 ④運営組織や運営方法について確認・再考し、安定した実施を行っていく。
	清水小学校	<ul style="list-style-type: none"> ①学力向上について、補習、漢字検定と2つの方法で取り組む。 ②あいさつ運動に、学校・家庭・地域で協力して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ①毎週金曜日に地域の学習ボランティアの協力による補習を行い、また、漢字検定を2月9日に行い、地域や保護者のボランティアの協力を得た。 ②PTAあいさつ見守り活動への呼びかけ、学校安全ボランティア会議を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①補習の時間に、学校運営協議会委員の紹介で地域の9名の方が学習ボランティアとして協力して下さった。学習ボランティアの人数が確保できたために、教員と学習ボランティアが協力してより丁寧に補習を行うことができた。児童も、個別に対応してくださる補習のボランティアの方に親しみをもち、学習を進めることができた。また、市の学力調査において、下位層の児童がいなかったという結果が報告され、補習の成果が表れていることを実感できた。 漢字検定では、昨年度を越える約180名が受検し、学校運営協議会委員で申込手続や当日の監督者募集などを行うことができた。 ②PTAあいさつ見守り活動への参加者が増えてきた。学校安全ボランティア会議に保護者にも参加してもらい、あいさつや見守り活動について理解を深めることができた。「FMはちおうじ」の学校紹介の番組作成では、児童が「清水小学校は、あいさつの学校」という紹介をするなど、児童の意識も高まってきた。ただ、まだ定着できていない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①補習時に地域学習ボランティアの人数をさらに増やし、より丁寧に児童の学習支援を行っていく。 ②登下校時のあいさつは、進んでできる児童が増えてきたが、自ら進んで友達にあいさつをできる児童はまだ十分とはいえない。6年生や代表委員会のあいさつ運動とともに、大人のあいさつ見守り活動も引き続き行い、あいさつがさらに活発にできるように働きかけていく。

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成26年度指定	宇津木台小学校	9回	①子どもたちの健全育成や円滑な学校運営のために、学校運営協議会(学校支援地域本部)としてできる具体的な方策の検討 ②保護者や地域住民への啓蒙活動のあり方	①学校支援地域本部が中心となり、ボランティアを募り、「放課後わくわく算数教室」やサタデースクール、漢字検定などを実施した。 ②サタデースクールの際にバザーを開き、保護者の出品を呼びかけたり、星空シアターやしめ縄作りでは親子での参加を呼びかけ、学校支援地域本部の活動状況をPRする機会を多く持った。	①サタデースクールや「放課後わくわく算数教室」に参加する児童数が年々増え、活気溢れる活動になりつつある。また、漢字検定も年3回行い、本校の児童だけではなく、地域の方々も受検するようになり、少しずつ定着してきている。 ②グランドサッカーやバザー、星空シアターやしめ縄作りには、毎年多くの保護者が参加するようになり、地域運営学校の趣旨が少しずつ浸透しつつあるように感じている。	①各種の活動に多くの先生方が参加するようになり、子どもたちも楽しそうに生き生きと活動している。これからは先生方の参加をお願いしたいと考える。また、この活動を長く続けるには、後継者の発掘や育成が重要であるが、現状のところなかなか目処がたたないのが今後の心配点である。 ②新入生の保護者や新たに宇津木台小学校へ赴任されてきた教職員への普及・啓蒙活動も引き続き行っていく必要がある。
	式分方小学校	10回	①「コミュニティ・スクール」を保護者・地域へ発信 ・広報紙「にぶっこみゆこみゆ」の発行(第9・10・11号及び臨時号)、保護者・地域町会自治会に回覧・配布 ・運動会での飲み物販売(式分方小運営協議会マスコットの缶バッジ付き) ・Tシャツの販売(児童・保護者向け) ②地域人材(ボランティア)の拡充 ・放課後算数教室、パソコン学習等学習支援ボランティア等の人材確保とコーディネート ・「ちょこっとボランティア」の募集 ・夏休み体験講座「わくわくサマースクール」の開催	①地域の方々の目にとまるようにA4両面カラーにし、地域との交流記事を掲載している。 ②校庭の草取りを中心とした「ちょこっと ボランティア」を広報紙にて保護者・地域の方に参加を呼びかける。 ・地域の方々の講師となる「わくわくサマースクール」16講座に約700人の応募があり、子どもたちの夏休みの定番となっている。 ・来年40周年を迎えるにあたり、地域の方々によって「40周年記念グッズ」を製作、販売を行った。	①ある町会では期限のあるボランティア募集の広報紙を別便で回覧し、地域の理解が少しずつ増してきた。 ②算数教室のボランティアから「式分方小に行くのが楽しくて！」との言葉をいただいた。 ・「ちょこっと ボランティア」には毎回 地域の方々や保護者、そして、子どもたちも自主的に参加して、地域の交流の場となっている。 ・サマースクールに参加の講師から「毎年楽しみにしている」との評価があり、子どもたちにとっては様々な体験ができる場となっている。	①広報紙を定期的に地域に届け、学校と地域・保護者をつなぐツールとして、活用したい。そのためには、より多くの方々に関わってもらえるように取組、地域に根差した記事の掲載をする。 ②「ちょこっと ボランティア」を定期的に開催し、地域の方々に気軽に学校に来ていただけるように、地域で活動している協議会メンバーとともに、地域へ発信する。来年度は開校40周年にあたるので、周年行事に地域・保護者の方々にも参加していただける取組としたい。
	由井第三小学校	11回	①学校運営協議会のPR活動 学校便り、学校ホームページ及び学校説明会等を活用したPR方法について ②授業参観等の実施及び児童の学力・体力向上 ・学校運営協議会のみでの授業参観の実施、校内授業研究への参加計画について ・広くて新しくなった校庭を活用したマラソン週間や大縄跳び大会の実施について ・児童の状況に関する共通理解について ③夢大地の取組の一層の充実 ・夢大地の取組を充実させるために、完成した副読本の活用方法について ・日本語検定、多摩・武蔵野検定の実施について	①学校ホームページにおいての「夢大地の取組」のコーナーを設定し、記事を多くアップし、広報活動に努めた。 ②学校運営協議会のみでの授業参観を年2回実施し、日頃の授業の様子を参観した。また、校内授業研究においては授業だけでなく、研究協議会に参加した。 ・広くなった校庭を有効活用し、全校児童によるマラソン週間、大縄跳び大会を、継続して実施した。 ③昨年度より活動している副読本作成委員会を中心に、副読本「ふるさと小比企・片倉 夢大地」(教員・保護者用)を完成させ、活用し着手した。また児童用の副読本を作成し、活用できるように準備を進めた。 ・今年度より、郷土愛を育てるために「多摩・武蔵野検定」を実施した。 ・学校運営協議会予算を活用し、学級園の土の入れ替え作業を地域協力者と共に行い、児童の農業体験の充実を図った。	①学校便り、学校ホームページ及び学校説明会等で広報・啓蒙活動を充実させることができた。後期学校評価自己評価保護者向けアンケートでは肯定意見が93.6%という結果となり、活動内容を、広く保護者や地域住民に周知することができ、その大切さも浸透し、協力体制も一層高まってきている。また、以前から要望していた、本校東門前の道路のカラー舗装が実現し、子どもたち、地域の方々の安全面での一層の充実が図られた。 ②学校運営協議会のみでの授業参観や研究授業参加を通して、本校児童・教職員の実態を共有し、学校運営協議委員の意見は教職員の研修に生かすことができた。マラソン週間では週3回のマラソンを3週間継続し、広くて水はけのいい校庭を有効活用して、児童の体力向上を図った。また、本校児童の実態を共有するために、多発ケース会議で取り上げた児童について、守秘義務のもと、その様子や対応策等について協議を行い、児童理解を図った。 ③副読本「ふるさと小比企・片倉 夢大地」が完成し、保護者・地域・本校教職員・関係者に配布した。成果①にも記したように夢大地の取組の意義を一層PRすることにつながっている。教職員には活用ポイントを記した冊子を配布し、授業等での活用につながるようにした。その結果、総合的な学習の時間を中心に児童の探究力の伸長につながっている。また、小比企・片倉町をより一層理解し、郷土愛が生まれ、未来を担う児童の育成が推進されつつある。また、「多摩・武蔵野検定」では八王子に関する出題を親子で取り組む姿が見られ、郷土をよく知ろうという意識の高さを感じた。	①本会の予算を有効活用し、本会が学校と協働体であることを確実に周知していく。 ②教員の異動や地域支援者の動向に左右されない持続可能な取組にしていく。 ③教師用と合わせ児童用の副読本を活用し、一層の「夢大地」の取組の充実を図っていく。

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成26年度指定	横山中学校	11回	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会として、学校を支援していくために具体的にどのような取組を行うことができるか。 ・学校状況の報告を受け、学校が抱えている課題を理解し、学校運営協議会として関係機関にどのような働きかけを行うことができるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員との面談を実施した。今年度は新たに着任した教職員が少なかったが、特に、新任・転入の教職員との面談では、地域運営学校としての役割を理解してもらう必要な機会である。 ・授業参観を実施した。生徒の実態や教員の授業力を知り、必要な助言を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員との面談や授業参観を実施したことで、教職員と学校運営協議会委員がお互いの立場を理解し、協力していくことが最終的には生徒・保護者・地域の期待に応えることの第一歩であることの共通理解が図れた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度は、生徒会役員等、生徒との面談交流の機会をもち、直接、生徒がどのような希望をもっているかを知り、その願いに学校運営協議会として何が出来るかを考え、実行していく。
	川口中学校	6回	<ul style="list-style-type: none"> ①支援部、教養部による地域の教養講座の新規開設と募集に関する協議を行った。 ②評価部による学校評価の集計とその結果に対する協議を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ①プランターへの花植えを行い、教養講座の竹クラブと連携し、教室入り口に一輪挿しを設置した。 ②学校評価の各項目ごとに学校運営協議会としてのコメントをつけ、定例の学校運営協議会において意見交換を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校環境の整備が進み、生徒の情操教育に寄与した。 ②継続した質問内容で学校評価を行ったことで経年の経過が見えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①地域の教養講座は新設はせず、現在、開設してある講座の充実を図る。講座の内容を生徒に還元する取組を作る。 ②学校評価の内容だけでなく、定例の学校運営協議会において、様々な面から学校に意見を出す。
平成27年度指定	緑が丘小学校	11回	<ul style="list-style-type: none"> ①学校運営協議会の主催のもと、土曜・放課後の「みどりっ算数教室」を年11回開催することができた。しかし2年目を迎え、登録学習支援等のボランティアの人数が不足しているという課題の解決に向けた検討を重ねた。 ②学校運営協議会としてできる学校支援について検討した。 ③市制100周年記念植樹プロジェクトとして、校内に桜の木の苗を植える企画を立案した。花壇の整備や芝生の養生など、校内の緑化に向けた取組を推進する。また「なかよしハート合唱団」が11月23日の市制100周年事業に出演するなど、市制100周年の年に児童の地域愛を育む教育活動について協議した。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学習補助を含めた学校の教育活動全般に渡って、児童を支援するボランティア組織「緑が丘応援団」は25名の登録があり、本年度は「みどりっ算数教室」を年11回実施することができた。 ②学校の課題を解決するには、まず教職員からの意見を聞くことが必要と考え、教員との意見交換会を行った。教員の負担感の分析や、学校運営協議会として支援できることを検討した。また、PTA、放課後子ども教室、学校運営協議会の連携を図るために、合同連絡会を年2回行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ①「みどりっ算数教室」には、70名を超える応募があり、のべ350名を超える児童の参加があった。多くの大人に褒められる体験が児童の学習意欲を伸ばしている。各学力テストにおいても、理解度が着実に上昇している。基礎力の定着に役立っている。 ③児童、教職員、PTA、学校運営協議会参加のもと、市制100周年記念植樹集会を立案通り開催することができた。参加者全員が見守る中で、思い出に残る植樹をすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①「みどりっ算数教室は」今後も継続していくが、支援する場のボランティアの人数に不足を感じることもあり、ボランティア登録数の底上げと、どのように連絡し配置していくか運営面での課題の改善を図っていく。 ②教員との意見交換会も継続して行い、学校の課題の把握と改善に向けた検討を重ねていく。また、PTAや放課後子ども教室など、校内の各組織の連携を図り、共通理解をもって児童の育成を図っていく。
	長沼小学校	12回	<ul style="list-style-type: none"> ①子どもの学力の向上について ②放課後と土曜日の子どもの居場所の確保について ③地域防災の推進について ④地域人材・自然を活用した教育活動と市制100周年事業の推進について 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校運営協議会が地域・保護者ボランティアを募り、放課後補習おもだか教室と漢字検定を実施した。 ②放課後子ども教室とサタデースクールの計画的な実施と高学年児童の中学校部活動参加により、放課後の子どもの居場所確保を図った。 ③町自治会と連携して小学生、中学生、地域住民と一緒に参加する地域避難・防災訓練を実施した。 ④ゲストティーチャー派遣や田畑の無償借用など、年間40回を超す地域人材と自然を活用した授業を実施した。 ・市制100周年記念事業として、PTAガーデニングサークルによる花壇やプランターの環境整備、記念植樹、そして長沼の戦中・戦後の様子や学校の歴史を児童に伝える記念集会を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ①放課後補習の拡大実施により、成績下位層児童の補習を充実させ、基礎学力の向上を図った。 ・漢字検定94%の高合格率で、参加児童約100名の言語能力の向上を図った。 ・吹奏楽部と野球部の中学校部活動に参加できたことで、高学年児童の中学校に対する親しみと好感を高め、中学校への一層スムーズな接続につながった。 ②放課後子ども教室とサタデースクールの充実により、子どもの放課後の居場所を確保することができ、校庭・体育館での身体を使った遊びを推進することで体力の向上の成果も上がった。 ③地域避難訓練・防災訓練参加者が初めて500人を超え、自然災害における不測の事態に備えのある学校・地域作りができた。 ④市制100周年で、児童・保護者・地域支援者が一緒に記念事業を行い、児童・保護者・地域住民の郷土愛を一層培うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①子どもの学力向上の課題については、学習ボランティアを増員するなど、引き続き放課後補習おもだか教室を充実させていく。漢字検定については、実施時期など再考して、受検者の増員を図る。 ②高学年児童の放課後の居場所を確保するために、放課後子ども教室の拡大を図っていく。また、中学校の部活動に小学生が参加するシステムを一層確立していく。 ③地域防災を推進するために、地域避難・防災訓練の周知の仕方を改善するなど、小学生、中学生、地域住民の参加者の増員を図っていく。 ④学校コーディネーターや教員のニーズに合った支援を充実させていく。

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成27年度指定	由木西小学校	11回	①児童数の減少の現状をシェアし、学校のあり方について協議した。 ②第1期(2年)の活動の継続の上に、各分掌が創意ある活動を提案し、協議した。 ③学校の特色ある教育を「自尊感情の育成」という視点で実現していくための三位一体の取組を協議した。	①学校のあり方について、市教育委員会教育長と学校運営協議会と懇談する機会を設定していただいた。 ②それぞれの分掌で、活動を定着させつつ、子どもを取り巻くコミュニティを広げる取組をした。 ③自尊感情を育むために、地域や保護者を巻き込んだ取組を行った。例として、地域の老人会、保護者とゴルフを楽しむ機会を作り、自尊感情を育む研究に寄与した。	①学校づくり＝地域づくり、を学校運営協議会の理念として再確認し、三位一体の地域運営学校にして行くことが今の最重要課題であると確認できた。 ②学校応援隊が広がり、地域の一員であるという子どもたちの意識が高まった。 ③取組を通して、子どもたちの自尊感情の高まりが見られた。	①今できることを推進していくことと共に、学校のあり方について熟議する機会を増やしていく。 ②さらに、応援隊を広げていく取組をして行くことが課題 ③12月5日の市教育委員会研究指定校の発表を、由木西小学校の不易の教育として広く発信し、評価を得ることが課題
	高尾山学園	9回	・本校の特色ある教育活動について、年間を通じて協議を行い、あるべき姿の方向性を検討した。 ・保護者力向上のための諸施策の検討と学校サポート本部に関して提案、協議、検討した。 ・学校運営協議会委員と全教職員との面談を実施して本校教員の状況を把握し、今後のあり方について検討した。	・学校サポート本部を運営し、保護者、保護者OB、団地住民、他地区住民の参加する体制をつくり活動を行った。 ・保護者力向上のため、各種ボランティア活動を企画し運営した。 ・企画事業を行い特色ある活動を支援した。	・学校運営協議会委員全員が本校の特性や教員の状況を把握し、次年度へ向けた提案や協議を行い、教育課程届や学校経営計画に反映できた。 ・学校サポート本部を運営し保護者力の向上及び団地住民らとの交流の機会が増えた。 ・100周年に関連した企画事業を行い学校を支援できた。	・H30年度はメンバーが退職や転勤など3名が入れ替わるが、更なる学校経営向上のため引き続き不登校特例校としてのあるべき姿を検討する。 ・学校サポート本部を中核に保護者力向上や団地住民との交流のための諸活動の充実 ・八王子に関する学習活動への支援及び企画事業の検討推進
	桐田中学校	9回	①運営目標や活動内容、学校の状況の報告 ②地域との連携、地域人材の活用	①学校の状況の報告 1学期末には、学年主任から各学年の1学期の様子を報告した。また、事務職員から予算の状況について説明した。2学期末には、各学年の2学期の様子を報告すると同時に、生活指導主任から学校全体の生徒の様子について報告した。 ②地域との連携 地域清掃への協力を行った。また、朝学習の実施については、生徒の質問に答える等の学習の補助について、地域人材を活用し、そのコーディネートを行った。 ③その他 7月と11月の数学検定を学校運営協議会主催で実施し、計23人が受検した。また、10月には修学旅行の業者選定のためのプレゼンテーションに参加した。	①学校の状況について、教員から直接報告した点については好評であった。また、予算の状況についての説明も興味深く聞いていただき、概ね好評だった。 ②年3回の地域清掃には合計で、延べ1,582人の参加者があった。また朝学習の補助にも毎回、地域の学生ボランティアが来てサポートをしていただいた。学校運営協議会のメンバーがそのコーディネートを行った。 ③数学検定は問題なく実施できた。この取組により、漢字検定と英語検定も学校運営協議会との連携で実施する方向となった。また、修学旅行の業者選定のためのプレゼンテーションについても初めての取組だったが大きな関心を寄せていただいた。	①今年度の取組は継続し、内容を一層充実させる。 ②次年度に新たに取組む内容として、以下を予定している。 ・定期考査前の学習補助について、地域人材のコーディネートをサポートする。 ・英語検定、漢字検定を実施する際の地域人材のコーディネートをサポートする。
平成28年度指定	第四小学校	11回	①学力向上について ・夏休み学力パワーアップ教室の計画・立案と人材の確保について ・漢字検定実施について計画・立案と当日の運営・ボランティア確保について ②地域防災について ・地域総合防災訓練についての計画・立案と当日の運営並びに地域との連携について ・図上訓練を教職員と行い、地域との連携のあり方について ③環境美化について ・1年間を通した芝生の管理について ・年3回の東放射線アイロードへの植え込みへの花植活動について	①学力向上について ・夏休み学力パワーアップ教室を大学と中学校と連携して実施した。 ・漢字検定をPTAの協力をいただき1月に実施した。 ②地域防災について ・地域総合防災訓練を4月に保護者・地域の方と共に実施した。 ・図上訓練を夏期休業中に教職員と実施した。 ③環境美化について ・毎週木曜日を芝生の管理日と定め、地域住民の方々が雑草抜き及び芝刈りを実施した。 ・年3回の東放射線アイロード植え込みへの花植活動を京王商店街の協力を得て実施した。	①学力向上について ・夏休み学力パワーアップ教室では、個別指導で算数の基礎・基本の定着を図ることができた。 ・漢字検定では、120名の児童が受検し、漢字力の定着に貢献できた。 ②地域防災について ・地域総合防災訓練では、保護者・地域の参加で児童の訓練体験を共に行い意識が高まった。 ・図上訓練では、学校が避難所になった時の地域との役割分担が確認できた。 ③環境美化について ・芝生管理では、活動が地域の方に定着し、芝生の生育が大変、良くなった。 ・花植活動では、環境美化に貢献し、地域の方々から気持ちが明るくなったという感想をもらった。	①学力向上について ・夏休み学力パワーアップ教室は、学生の試験日との兼ね合いが課題として残った。 ・漢字検定は、学年のまとめである3学期に実施したいが、インフルエンザが流行する冬になる。 ②地域防災について ・地域総合防災訓練は、消防署、関係機関との連絡調整を1年前から進めなければならない。 ・図上訓練は、学校が避難所になった時の地域との役割分担を明確にする点が課題になった。 ③環境美化について ・芝生管理は、天候に左右される点や芝生の管理の正しい知識が必要である。 ・花植活動は、苗を購入する予算が限られていることである。

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題
平成28年度指定	第九小学校	①学校運営協議会だよりの定期的な発行について ②持久走大会の実施、夏季講座の開設について ③運営協議会の開催回数について 議題が少ない時や大きな必要性がない時は、休会にする方向で検討した。	①学校運営協議会便りの発行について、学校側から人選して、協議会に参加しつつ記録を取り、それを元にPTAの代表に作成していただくことにした。その後発行することができた。 ②夏季講座は、初回の今年は5講座でのスタートとなった。(バスケットボール、サッカー、図工、ビーズアクゼサリー、囲碁)参加人数もあり成功であった。 ・持久走大会は2回目であるが、天候不順のため一斉の大会開催はできなかった。学年ごとの実施であったが、参観者もあり定着しつつある。	②夏季講座では、地域の方々の協力も多く、児童の参加も予想以上に多かった。講座を主催された方々も創意工夫され充実したものとなった。児童からは来年も参加したいという声がかれた。 ・低・中・高の各学年部での持久走大会にはなったが、持久走大会の存在そのものが児童や保護者、地域の方々の中に少しずつ、浸透してきた。校内では9月から練習を開始したが、児童の2学期の目標に持久走大会に向けた目標が目立ち、定着しつつある手応えを感じる。	②来年度の夏季講座では連携中学校からの協力を得て、1講座増やす予定である。その他、地域の方々にもご協力いただき講座数を増やしていきたい。 ・運営自体を年々学校運営協議会と地域の主体的な取組に移行予定だが、まだまだ学校が関わる必要がある。今後も引き続き無理のないように配慮しながら移行作業を進める。
	中野北小学校	・平成29年度の教育課程・学校経営方針に基づく教育活動の進捗状況の報告について ・放課後子ども教室やサタデースクール等による児童の体験活動の充実について ・学校評価について ・平成30年度教育課程について	・開校50周年記念行事の実施 ・避難所宿泊体験の実施 ・新学習指導要領に向けた講演会の実施	・毎回、校長がスライドを使い、教育活動の報告を行い、学校の様子を理解することができた。 ・開校50周年記念式典・行事を、地域や保護者の理解を得ながら、無事に終わらせることができた。 ・研究発表会をバックアップすることで、市指定校研究発表会を成功させることができた。	・学習面のサポート体制を構築していく必要がある。学校が行っている放課後学習クラブの一部を学校運営協議会で行うことにより、ボランティアの謝金を確保したい。 ・学校運営協議会委員の数名が他校と兼任しており、負担が大きい。来年度は協議会の回数・内容を精選していく必要がある。
	小宮小学校	①児童や教職員の実際の教育活動の様子を参観し実態を把握することで、今後の教育活動を進めていく上で必要なアドバイスが行えるようにする。 ②学力向上の一環として、漢字検定試験に取り組む。	①年間を通して、以下の行事等の様子を参観していただき、その後に話し合いを持ち、アドバイスをいただき、次年度以降の活動に役立てることを目指した。 「セーフティ教室参観」、「給食試食」、「小宮小まつり参観」、「道徳授業地区公開講座・講演会参観」、「外国語活動授業及び教員研修会参観」、「市制100周年記念植樹参加」、「教員による自主勉強会参観」、「6年生を送る会参観」 ②1月末にPTAの協力を得て、漢字検定試験を実施し、保護者・卒業生・在校生合わせて200名弱が受検した。	①実際の活動の様子を見ていただいたことで、より具体的なご意見を伺うことができた。 ②漢字学習に意欲的に参加する児童が増えてきた。	①行事以外に、通常の授業の様子なども参観することにより、さらに多くの活動の様子を参観していただくことで幅広いご意見をいただけるようにする。 ②漢字検定以外にも児童の学力向上に役立つ取組を進めていく。
	散田小学校	①学力向上のための読書活動推進について ②横山地区(横山中、横山第二小、散田小)の共通した生活スタンダード、学習スタンダードの定着のための行動について ③学校経営方針の説明と平成28年度の学校評価について ④平成29年度の学校経営方針の承認について	①親子読書活動で、児童に対して賞状を渡すことで読書への興味・関心を高めることができた。 ②「横山地区スタンダード」を学校運営協議会会長、校長の連名で印刷、配布することで周知できた。	①児童の読書量は増加した。 ②横山地区スタンダードを周知することができた。	①児童の読書量は多くなっているが読書しない児童、目標の冊数を読むことができない児童がいる。また、学力向上との関係性を十分に把握できていない。この2点が課題であり、次年度改善していくべき方向性である。 ②横山地区スタンダードの内容を周知することはできたが、内容の徹底については不十分であり、学校、保護者、地域が一体となって取り組んでいく必要がある。
	山田小学校	①学校の教育活動の説明・報告と協議、助言 ②学校運営上の課題に対する助言 ③平成30年度教育課程の説明と助言	①学校の教育計画にある実施要項等をA4版1枚程度に分かりやすくまとめ直し、活動のポイントを示すことにより、委員から具体的な指摘を受けることができるようになった。 ②月ごとに学校が直面している課題を報告するようにすることで、様々な分野の委員から解決していくための助言をもらえるようになった。 ③次年度の取組を具体的に説明し、助言並びに承認を得るようにして、開かれた学校づくりを目指すようにした。	①毎回各委員と質疑応答を行い、意見交換をしたことで、よりよい活動へと具体的に改善していくことができた。また、学校の取組方法を委員に共通して認識してもらうことができた。 ②学校が抱える課題等を各委員に認識してもらうことができたことで、地域と学校との連携を深めることができたとともに、助言や援助をもらうことができた。 ③「知・徳・体」における具体的な方略と方策を伝えることで、学校の目指す方向を認識してもらうことができた。	・質疑にやや重点が置かれてしまい、地域と学校との連携や地域人材の活用などという視点からの改善にはあまりつながらなかった。地域との関わりをどのようにしていくかが課題である。 ・地域と学校との連携を、各学級の運営に反映させていくための方策に十分に結びつけることができなかった。具体的な指導へどのようにつなげるかが課題である。

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成29年度設置	第一小学校	10回	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の運営・経営計画・重点目標等について ・学校評価アンケート調査項目(保護者、児童、地域)の検討 ・幼保小、小中の連携について ・教員募集にあたっての文言について ・学校の授業・行事を参観しての感想及び学校の教育活動に関して ・学校評価アンケートの結果を受けて、今後の運営面での継続・改善点について ・次年度の指導体制について ・次年度の教育基本方針・委員について 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28・29年度 教育委員会の研究指定校となり道徳教育に力を入れ、学校での教育だけでなく、家庭、地域が一体となって指導できるよう情報提供を行った。 ・6年生のキッズショップの開催や駅前通りの花植えの実施 ・花と緑の街づくりフェア、みずき通りフェスティバルへの参加 ・合唱団による、地域イベントへの参加 ・地域と連携した防災訓練 ・放課後子ども教室の推進 ・漢字検定の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の教育化に向けて、自校だけでなく他校に対しても手本となる発表を実施できた。 ・児童自ら企画し、販売を行うキッズショップは、地域との連携を感じさせながら貴重な体験につながっている。また、花植えは多数の通行人から暖かい言葉を多数かけられることで、感謝の気持ちを直接感じることができている。 ・行事への参加は、地域や商店街と一緒に活動することで地域で育っていることを体感できている。 ・学校を使用しての防災訓練の実施により、避難場所として地域の再認識を行うことができた。 ・放課後子ども教室にて、学習支援、スポーツ支援等を実施し、地域ボランティアと積極的に関わることができ、人材発掘へとつながられた。 ・漢字検定試験を初めて実施し、122名の参加があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域運営学校として、より一層保護者や地域の方々の意見を学校運営に反映させたい。 ・放課後子ども教室等を活用して、学力・体力アップへとつなげていきたい。 ・青少年対策地区委員会主催のウォークラリーやクリーンキャンペーン等の地域行事へ教職員の参加率の向上 ・防災訓練の対象が、一部町会であったので全学区域を対象として実施していきたい。 ・ボランティアが限られているため、一部の方に負荷が大きいかかっている。新規のボランティアを獲得したい。 ・幼保小、小中の連携を今まで以上に図り、スムーズな進学につながる体系を構築したい。
	いずみの森小中学校	10回	<ul style="list-style-type: none"> ①義務教育学校開校へ向けて、地域とともにある学校づくりをさらに推進していく上での課題や今後の取組について ②学校運営協議会の役割、活動内容について 	<ul style="list-style-type: none"> ①義務教育学校開校へ向けた教育課程づくり。また、学校複合施設としての活動の企画・調整・運営 ②長房小学校の学校運営協議会傍聴 	<ul style="list-style-type: none"> ①義務教育学校の校名決定について、市教育委員会へ学校運営協議会の案として提示。標準服導入についてのアンケートを実施。協議の結果、標準服は7年生から導入する方針を決定 ②学校、町会、青少年対策地区委員会、PTA、放課後子ども教室、サタデースクール等、それぞれの活動・取組を一覧できるコミュニティカレンダーを作成予定 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と協働・連携した教育活動・取組として、学習支援、防災訓練を実施予定。町会、青少年対策地区委員会等との連携・調整を始める。コミュニティスペースの運用、活用については今後も協議を続ける。 ・一般教員の参加、広報活動の充実をすすめる。
	大和田小学校	11回	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会を年11回行い、学校とともに家庭・地域社会が連携した学校づくりを推進した。 ・年間行動目標を「みんなで育てる大和田っ子」とし、学校運営協議会で協議を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した特色ある学校づくりが進み、子どもの学力が向上するように支援した。 ・子どもの基本的な生活習慣について協議し、問題行動や不登校が減るよう支援した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育科の研究発表時に積雪後も校庭が使えるよう、保護者に呼びかけ、使えるようにした。 ・個別学習が必要な児童に対して学校に協力して支援を行えた。 ・総合的な学習や理科教育で学習支援をした。 ・学校運営だよりを3月に発行した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の意識改革を推進し、スキルアップを図れるようにする。 ・学校運営協議会の周知により地域の目を学校に向けて、ボランティアの人材発掘を図る。

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成29年度設置	横山第一小学校	12回	<p>①保護者・地域等の思いや願いを教育活動に反映させるための意見集約を実施・分析、今後の教育活動に反映</p> <p>②学校運営協議会の活動・取組等を広く紹介・周知</p> <p>③地域連携を重視した具体的な活動取組</p>	<p>①課題把握・迅速対応…本校の教育の強みや本校が抱える教育課題、保護者・地域のニーズ等を把握。保護者・地域を対象とした学校評価アンケート調査を年2回実施</p> <p>・アンケート実施・分析…運動会・作品展、学校公開・学校説明会、授業参観等は毎回アンケートを実施。課題把握、情報共有、迅速な対応</p> <p>②学校運営協議会の取組…学校運営協議会制度の趣旨、活動内容の周知を目的とした広報活動。学校だより、ホームページ、地域運営学校だより等にて活動の様子を紹介</p> <p>・いじめの防止の取組…学校運営協議会主催の「道徳授業地区公開講座 講演会」開催。国立ハンセン病資料館学芸部長による「あなたはやさしいですか?」について講義</p> <p>③「全国都市緑化はちおうじフェア」の協力…南浅川沿いのサテライト会場整備</p> <p>・市制100周年事業への協力…記念植樹用の樹木選定。記念植樹の日に、地域の昔について講話(録画)を全校児童、保護者・地域等へ紹介。</p> <p>・地域防災会議への協力…避難所用備品・災害時特設公衆電話の管理の明確化</p>	<p>①積極的な広報活動…学校の考え、今後の取組等について積極的解答。保護者のニーズ、地域住民の思いや願いを教育活動に迅速に反映</p> <p>②</p> <p>・学校運営協議会の活動紹介…学校運営協議会制度の趣旨等の理解や活動内容紹介。学校だよりにより毎月、学校運営協議会の協議内容を掲載。ホームページにも「学校運営協議会」のバナーを設置。「地域運営学校だより」を毎月発行。保護者・地域からの高評価</p> <p>・いじめ防止の取組…国立ハンセン病資料館の学芸部長による「いじめ」、「本当のやさしさ」、「差別」等の講演会実施。多数の保護者、地域、他校の保護者が参加。大人自身が「いじめ」について改めて考える有意義な時間設定</p> <p>③</p> <p>・サテライト会場の整備…校舎裏側を流れる南浅川沿いの花壇を児童、保護者、地域住民等と共に整備。ウッドチップで園路を設け、花に囲まれた小道作成。「たね団子花壇」として、児童・保護者・地域住民等がその成長を楽しむ。</p> <p>・八王子市市制100周年…校内に「さくら」を植樹。候補に挙がった「さくら」の選定実施。学校公開・作品展の保護者鑑賞日を活用し、「記念植樹の会(児童会主催)」を開催。多くの保護者・地域の方々の前で盛大に開催。600人以上が参加</p> <p>・避難所開設に向けて…防災倉庫内で管理していた「避難所用備品」、「災害時特設公衆電話」を体育館舞台上に移動。市施設管理課等の承諾</p>	<p>①開かれた学校づくり…地域の方がいつでも利用できる「地域の部屋(仮称)」の設置。現在は校舎1階の廊下に「地域コーナー」を設置。地域の方が写真や地域の花々、地層等を展示</p> <p>②積極的な情報提供・情報共有…学校だよりは「A3B版で2枚(8ページ)」で作成。教育活動の様子を詳細に紹介。ホームページは毎日更新。今後も継続</p> <p>③地域連携の深まりと充実…地域防災会議を毎年開催。町会長、自治会長、消防署員、近隣幼稚園長・保育園長、市職員、学校関係者等、互いに顔を合わせ、名前を伝え合う。発災時の対応をスムーズに行える工夫。今後も継続</p> <p>・町会及び自治会の総会等への参加…校長が積極的に町会・自治会の総会へ参加。「学校運営協議会とは?」、「地域運営学校とは?」について資料をもとに地域住民へ説明。今後は取組の活動報告等も視野</p> <p>・地域行事等への積極的参加…夏祭り(6か所)へ、教職員が率先して参加。1人が2回以上参加。今後も継続</p>
	元八王子小学校	10回	<p>①学校経営方針の「きれいな学校」の実現を目指し、学校運営協議会と学校が連携した取組を協議。100周年関連の取組や青少年対策地区委員会との連携等、様々な意見が出された。</p> <p>②「学校支援」をテーマとして、家庭や地域との協働・支援をどのように計画・提案し、意識付けていくか検討した。</p>	<p>①緑化活動の方々や環境委員会が連携し、様々な花を植え、環境の美化を図った。また、100周年記念の植樹を学校運営協議会と環境委員会の児童が連携して行った。</p> <p>②学習支援の方々によるベーシックドリルの丸付け活動。学習支援ボランティアの方々による全教科の学習支援活動・清掃ボランティアなど。</p>	<p>①緑化活動の方々の支援により、校内美化の大切さについて児童の意識を高めることができた。学校運営協議会と児童の協働作業により、地域との関わりについて児童が考えを深めることができた。</p> <p>②学習支援者を募集することにより、地域・保護者の方々が、児童や学校に対してさらに関心をもってくださるようになり、回を重ねるにつれ、支援者が増加してきた。</p>	<p>①ダン小学校との交流活動や学芸会など、元八王子小学校の行事と関連した取組を検討・実現する。</p> <p>②学習支援の形式や学習支援者をさらに拡大し、地域に根ざした元八王子小学校として発展を目指す。</p>
	元八王子東小学校	12回	<p>・今、学校運営協議会にできることは何か。毎回、担当毎に活動についての報告や計画について話し合った。</p> <p>・地域の人材発掘や新しい企画等について話し合った。</p>	<p>・ボランティア懇親会実施</p> <p>・漢字検定実施</p> <p>・都市緑化フェアへの参加</p> <p>・はちおうじFMへの対応</p> <p>・先進校視察(三鷹連雀学園)等</p>	<p>・漢字検定には68人が受検。学校で行った学校評価では「これからも続けて欲しい」という意見が複数寄せられた。</p> <p>・都市緑化フェアでは、各学校が行うのとは別に「スポーツ会場」となり、公認ガイドに元八王子東小の名前が掲載された。</p> <p>・はちおうじFMへの番組放送づくりでは、広報担当が本学校運営協議会のPRを効果的に行った。</p> <p>※様々な活動を通して、企画を立案・計画し、中には実行できたものがあり、委員は学校運営協議会の運営に自信を付けている。次年度以降が大いに期待ができる。</p>	<p>・人材の確保が何より課題である。</p> <p>・学習支援やクラブ活動の指導補助、放課後教室の運営などを行ってほしいと意見を出し合い、夢は大きくなっている。</p> <p>・そのためにも地域人材の発掘・活用を今後どのように進めていくかについても、毎回のように話し合ってきた。</p> <p>・まずは、人づくりに活動を広げていき、人の輪を広げていこうと話している。</p>

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成29年度設置	上老分方小学校	11回	<ul style="list-style-type: none"> ①放課後学習教室の運営についての振り返り ②漢字検定の運営についての振り返り ③その他の事業の振り返りと、先進校視察の報告 	<ul style="list-style-type: none"> ①放課後学習教室を3学期より発足させ、3か月間運営 ②漢字検定を準会場として自校で実施 ③八王子BBSとの共催で親子ふれあい工作教室を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ①宿題に取り組みなかった児童が、取り組むようになるなど学力の向上に寄与した。 ②保護者からの要望がこれまでもあり、実現させることができた。全校朝会で表彰を行うなど、児童の学習意欲の向上に寄与した。 ③保護者が学校に来る機会をつくることができた。特に父親の参加があり、保護者が学校に関心を持つきっかけとなった。また、保護者と児童がふれあえる機会を提供することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後学習教室の運営を継続していく。そのために今年度の反省を生かし、対象学年の検討や、指導員の数の十分な確保を目指していく。 ・漢字検定を次年度は年2回実施し、再挑戦できるようにする。ボランティアの確保を学校コーディネーターと連携して確実に進めるようにする。 ・学校運営協議会を町会等にさらにアピールすることで、地域の方を学校現場に取り込み、地域でつくる学校を目指す。
	城山小学校	7回	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の公開行事(運動会、学習発表会、道徳授業地区公開など)に地域住民が関心を持ち多数参加できるようにする。 ・特に不登校などの課題が見られる児童について、保護者ならびに担任・校長先生と情報を共有し健全な育成を促す。 ・担任や校長先生が過剰なクレームを持ち込む保護者への対応に苦慮している場合は、協議会でも保護者と接触し充分傾聴した上で納得できる解決策を提案する。 ・児童に地域の歴史や特色を知ってもらうプログラムを提案する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校とつながった学校運営協議会として、小中学校の両方を見る学校運営協議会委員と、小学校のみ、中学校のみの学校運営協議会委員がおり、学期1回の小中合同の会を開き、交互に小学校又は中学校で開催しながら9年間を見据え、地域が学校を支えていく取組を進めた。 ・保護者からのクレーム対応として、校長、副校長、担任と情報を共有し連携しながら必要に応じて本人・保護者と対応する。 ・生徒、保護者や地域住民に対して電子メール(sos119shirayama@yahoo.co.jp)を活用した「お困りごと相談窓口」を設置し、全保護者と地域に広報紙で紹介した。この相談窓口は学校運営協議会で対応する。 ・本年度から「子ども食堂」を、地域と連携し立ち上げることができた。月1回開催している。 ・公開行事などでは> ・まず年に8回予定している土曜開催のサタデースクールを、PTAと連携しつつ地域の協力を得て、ホテル観賞や防災訓練など学校運営協議会の組織活動として進めることができた。 ・他の運動会や学習発表会、学校公開の授業など、地域の協力を得て学校運営協議会でもチラシを町会・自治会に配布した結果、地域の方も多数参加し盛大であった。 ・学校運営協議会では地域から募金を募り、中学の吹奏楽部演奏会、卒業式の会場に花鉢を購入し、小学校の卒業式でも使用して、式場を飾り雰囲気盛り上げた。この花鉢は小学校、中学校の入学式にも活用された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の公開行事には、学校行事のチラシを地域に配布するタイミングを早めたりロコミによるPRもしたため、昨年度より多くの住民が参加した。 ・生活指導主任、養護教諭、担任が情報を共有し連携して本人・保護者に対応した結果、連絡が全く取れない不登校児童はいなかった。幸い今年度は協議会が介入する場面はなかった。 ・保護者のクレーマーは極めて少なかったが一部の保護者から部活動に関するクレームがあったが部活顧問、校長先生、副校長先生、教育委員会が連携して丁寧に対応した結果収束した。なお、お困りごと相談窓口には何のメールもなかった。 ・小中学校の9年間を見ていく学校運営協議会が、無事年間を通してスタートし終えることができた。 ・学校運営協議会が地域、PTA、関係機関とつながった組織体制が見えてきて、それぞれの立場で児童生徒の健全育成を目指す取組ができた。 ・校内の環境整備ということで、学校園の除草作業や校内の整備などPTAや老人会、地域と連携した取組が進められ学校支援ができた。また、学習用水田20㎡を学校運営協議会とPTAで設置することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事のチラシの配布時期を余裕をもって開催日の1か月前に配布するがロコミによるPRを積極的に行う。 ・課題のある児童は、主として家庭の理解と家庭環境に起因することが多いと思われるが、個人情報に配慮しながら、低学年の内から必要に応じて校長、担任と相談し慎重に対応する。 ・学校側と連携しながら保護者会には学校運営協議会委員も出席し、顔を知ってもらった上で保護者のクレームにも対応できることをPRする。 ・八王子車人形の体験授業が継続できるよう事前に講師と折衝する。
	横川小学校	12回	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援部の取組 ・地域支援部の取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校中学校合同での取組の充実 ・市制100周年の取組として、「横川小百人一首大会」を学校運営協議会と共催で行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度から「漢字検定」を学校運営協議会で行うようになり受験者が増えた。 ・学校運営協議会からの呼びかけで、学校公開授業に参加していただく地域の方々からたくさんの図書の寄贈があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上の一環として、「漢字検定」だけではなく、「英語検定」も来年度から行う予定である。 ・地域の町会長とも連携し、地域防災訓練の計画を立てる。

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成29年度設置	恩方第一小学校	10回	<ul style="list-style-type: none"> ・地域運営学校の周知の方法について ・ボランティアの人材発掘について ・恩方地区の学校運営協議会の活動について ・放課後子ども教室の開催について 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで青少年対策地区委員会等の行う行事を、学校運営協議会との共催とした。 ・3月の協議会の日程を卒業式終了後とした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会との共催の行事を設定することで、教員の参加が増加した。 ・学校運営協議会の委員による声かけで、ボランティア人材の発掘ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校コーディネーターを設置し、学校運営協議会と連携して地域人材の掘り起こし、活用を図る。 ・放課後学習教室、サマースクールなどを開催し、学校の課題である「学力向上」に対して協働していく。
	恩方第二小学校	11回	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営計画の承認。今年度の日程やテーマの検討 ・児童の転出に伴い、保護者に不安感が広がり、保護者同士の連携のあり方を話し合った。 ・教職員の顔合わせはあったが、意見交換会が計画されていなかったため、開催を企画した。 ・今年度から始めた小小連携の計画と実践の状況報告 ・学校経営報告 ・次年度計画 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳授業地区公開講座の中で、グループ討論を行った。道徳授業について、家庭での道徳教育、日頃感じている育児について話し合った。 ・地域包括支援センターと協働して、ゆうゆうはっちょう会という介護予防の講座に児童が参加している。その実践報告をした。 ・教職員との意見交流会を実施し、「教室の中で支援の必要な児童が増えているため、手が足りない状況である。手を貸してほしい。」「作物の栽培がうまくいかない。お手伝いしてほしい。」「地域の歴史や文化について詳しい人を紹介していただきたい。」などの意見が教員側から出され、協力の仕方について検討した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の町会長、漁協、民生委員など要となる人材が委員となっているため、学校運営協議会での協議がすぐに町会に伝わるメリットがある。夕やけ小やけふれあいの里と市制100周年記念行事で協働できた。町会で課題となっていた学校便りの配布を戸別配布にし、行事のお知らせを事前に配布するように改善を図った。 ・地域人材の情報が入りやすく、今年度新たな授業を立ち上げることができた。 ・市教育委員会研究推進校の実施に当たり、地域やPTAに多大な協力を得られた。 ・PTAが委員であることから、PTA行事に積極的に参加する地域住民が増えた。 ・恩方第一小学校との学校運営協議会の共同開催ができた。お互いの運営を紹介し、共通の課題について話し合った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度は作物栽培について地域と協働した取組を実施する。地域の産業を継続的に体験する中で、地域理解を深め、地域愛を醸成する狙いがある。 ・今年度は「恩方第二小を知ろう。」がテーマであったが、次年度は学校運営協議会としての方向性を固めていきたい。 ・今年度講演会を企画し、先進校の実践を学ぶことができた。先進校を研修に訪れたいと考える。 ・今年度は、管理職が主に進行し、地域の方は意見を述べるにとどまった。次年度は主体性をもち、委員が運営する会に発展させたい。また、周知活動も管理職がまとめる各会の報告のホームページへのアップにとどまった。何らかのリーフレットを作成したいと考える。
	元木小学校	12回	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の教育事情について ・恩方東学童保育所の移設について ・元木小放課後子ども教室の開設準備について ・創立40周年記念式典の企画・進行のあり方について ・学校評価保護者アンケートに対する協議会としての見解について 	<ul style="list-style-type: none"> ・40周年記念式典において、宝生寺団地囃子連を招き、演じていただいた。 ・小津クラブおよび市の農業担当部局との連携を図り、元木小オリーブこども植樹を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・恩方東学童保育所の移設について、市関係部局との話し合いを行い、元木小学区の町会・自治会への説明会開催を関係部局が行ったほか、学童保育所に自家用車によって送迎する方のための駐車スペースの確保を設計図に反映させることができた。 ・元木小放課後子ども教室の開設準備を市関係部局とともに進めることができた。平成30年9月までに開設できる見通しとなった。 ・学校評価保護者アンケートに対する協議会としての見解をまとめ、学校便りに掲載した。 ・小津クラブおよび市の農業担当部局との連携を図り、元木小オリーブこども植樹を実施した。 ・40周年記念式典において、宝生寺団地囃子連を招き、演じていただき、元木小創立40周年記念式典をつつがなく実施することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・恩方東学童保育所の移設工事の着工・竣工となることから、市関係部局や元木小学区の町会・自治会との協調・連携を維持し、児童や地域住民の安全を確保するとともに、円滑な学校運営を行うことのできる環境を整える。 ・平成30年度上期に元木小放課後子ども教室を開設できるよう必要な協力を行う。 ・小津クラブおよび市の農業担当部局との連携を図り、元木小児童が毎年度参加する形のオリーブ栽培活動のあり方を模索する。 ・元木小のいじめ防止及び秩序ある学級・授業づくりを支えることができる活動を模索する。
	檜原小学校	12回	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の事前の周知や反省点の協議 ・地域の要望や願いを学校に伝えるとともに、児童の問題や支援体制など課題を共有する機会とした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の情報を広く収集し、地域ボランティアや人材を組織化した。 ・漢字検定や放課後に地域の方が得意なことなどで子どもと触れ合う機会を計画した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域運営学校の活動により、ボランティアの人材発掘を図り、より緊密な連携を図ることができた。 ・教職員の意識改革が図られ、地域と学校の協働体制の強化につながった。 ・放課後子ども教室と連携し、地域と協力した学力向上の取組の仕組みを作ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の協議がどのように学校に生かされ、具体化されたのか十分に見えないところがあったので、その課題を解消するために、学校運営協議会委員と教職員との懇談する機会を持つ。 ・地域との連携の一つに、防災訓練があり、その具体的なスタートに来年度取り組む予定である。

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成29年度設置	由井第二小学校	7回	<ul style="list-style-type: none"> ①今年度の取組について ②周年行事等への協力体制について ③放課後子ども教室の運営について ④近隣のお店に対する苦情について 	<ul style="list-style-type: none"> ①1978年の開校100周年に埋設されたタイムカプセル開函への協力 ②市制100周年記念植樹への協力 ③放課後子ども教室の取組 ④近隣のお店とのトラブルの仲介と学校の決まりの改定と近隣への周知 	<ul style="list-style-type: none"> ①本校開校130周年記念事業への協力。本校開校100周年に埋設されたタイムカプセル開函に協力し、平成29年11月3日に開函が行なわれ150人以上の関係者が集まった。 ②市制100周年記念樹の植樹の記念碑設置等の協力をいただいた。 ③放課後子ども教室を7月より実施した。途中問題のある事項について修正しながら、年度末まで実施した。8割以上の家庭が登録し、放課後の子どもの遊び場として喜ばれた。 ④近隣のお店に児童が入り浸り心配との声が保護者からあがり、状況調査で該当するお店との話し合いを経て、学校の「生活のきまり」の改定を行い、近隣の施設等にも配布し、協力を呼びかけ、保護者から感謝された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後子ども教室については、1年目としての運営はできたと感じる。今後は、管理の問題等の課題を踏まえつつ、次年度につなげたい。 ・来年度は6月に漢字検定を行う予定であり、現在実施に向けて準備を進めている。 ・活動が、PTAと共催のものも多かったことから、次年度の学校運営協議会委員の活動について考えていくことが必要である。
	片倉台小学校	8回	<ul style="list-style-type: none"> <学校・地域・保護者の3者の協働体制のもと、地域に開かれた教育課程の編成及び充実した教育活動を行う。> ・学習活動の充実を目指した取組を中心に学校・地域・保護者の協働体制のもと、教育活動を推進するために必要なこと。 ・防災、防犯教育の充実を目指した取組を中心に、学校・地域・保護者の協働体制の下、教育活動を推進するために必要なこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の特別活動での取組である「縦割り班活動」で行っている栽培活動に、学校運営協議会を中心とした地域ボランティアの支援を得て活動を行った。 ・新規設置の予算を有効活用して、算数の習熟度指導の学習ボランティアの導入を決め、学校運営協議会の推薦による地域人材の活用を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自治組織や地域の学習協力者との連携をより確かなものにする中で、教育活動をこれまで以上に円滑に進めることができた。 ・保護者、地域、関係諸機関の協力を得て、教育活動の取組内容を充実させることができた。 ・地域運営学校の周知により地域の目を学校に向けて、ボランティアの人材発掘を進めることができた。 ・教職員の意識改革が図られ、地域と学校の協働体制の強化が図れた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の実績を基に、学校・家庭・地域の連携のあり方をさらに工夫し、強固な協力体制のもと、児童の健全育成に資する組織としていく。 ・地域の特性をこれまで以上に明確にし、教育活動の中に生かすことができる資産として位置付け、これまで以上に積極的な活用を図っていくことを目指す。
	由木中央小学校	11回	<ul style="list-style-type: none"> ①学校運営協議会の運営基盤づくりについて ②市制100周年の取組について 	<ul style="list-style-type: none"> ①初年度ということもあり、学校運営協議会のあり方について話し合ったり、先進校の視察に行ったりするなど、運営基盤づくりに向けて取り組んだ。 ②学校が企画をする市制100周年企画について、学校運営協議会も連携して取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ①運営基盤づくりに向けて、取り組んだ結果、PTAのボランティア活動と連携していけるような組織づくりについて練り上げることができた。 ②長年、言語活動に取り組んできた本校の強みを生かして行った「市制100周年記念ビブリオバトル大会」を、近隣図書館や大学と連携しながら成功をさせることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①今年度に時間をかけて考えた運営組織について、来年度実際にやってみて、修正を図っていきたい。 ②今年度のビブリオバトルの成功をきっかけとして、来年度も言語活動の充実にもむけた取組を学校運営協議会としても支援していきたい。
	由木東小学校	8回	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の組織について ・本校の経営方針と育てたい児童像について 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体会に加えて、4つの専門部会(教育支援ボランティア部会、保幼小中連携部会、環境美化・行事部会、広報活動部会)の設置 ・保幼小中連携として、園児・児童・生徒の交流の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域運営学校立ち上げの年であったが、組織としては、専門部会も設置しそれぞれ目当てに沿った活動ができた。 ・各学年から、地域との連携に関する実態と今後の希望を集約してボランティア組織図を作成し、今後の活動の土台をつくることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門部会の活動をさらに進めるとともに、大学との連携など新たな取組を模索する。 ・ボランティア組織図ができたので、今後各学年の授業で、地域の人材を活用していきたい。

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成29年度設置	鹿島小学校	6回	①本校の特色の一つである農業体験について、どのように地域人材を活用し、教育活動の活性化を図るか。 ②地域と連携して、3校合同(鹿島小、松が谷小、松が谷中)で「地域の一員」としての意識を高めるために何をすべきか。	①3年生コンニャク栽培・5年生稲作・6年生サツマイモ栽培等の農業活動体験、その活動を受けてのコンニャクづくり、おにぎりパーティー、収穫祭等 ②3校合同(鹿島小、松が谷小、松が谷中)で、鹿島・松が谷地区での「あいさつ月間」	①それぞれの活動に、外部講師やボランティアを招へいできたことによって、学習が深まったり、体験が豊かになったりした。ただ作物を育てて食べるだけではなく、先人の生活の知恵を学んだり、協働の楽しさを感じたり、働く厳しさに気づいたりすることができた。 ②青少年対策松が谷地区委員会と連携し、一か月の「あいさつ月間」を実施できた。地域内の小中学生が積極的にあいさつをかわしたり、知らない人でも地域の中で会った方にはあいさつをしたりと、地域の絆を深めることができた。	①組織としての効果的な関わり方をさらに工夫したい。 また、鹿島小の新たな特色として「英語活動」をどう支援していくかを考えていきたい。 ②これからも続けていきたい。中核となる「あいさつ月間」だけではなく、日常生活から地域の中であいさつを大切にできるよう、学校運営協議会委員もそれぞれの立場で盛り上げていきたい。
	松が谷小学校	6回	・今年度は、現在行っている行事や取組に学校運営協議会も共催という形で協力していく。 ・来年度は、どのような学校運営協議会独自の活動をしていくか。	・鹿島小・松が谷小・松が谷中の3校合同の学校運営協議会共催で第一回松が谷・鹿島地域防災訓練を実施した。 ・地域音楽祭、やきいも大会等の行事も共催したほか、八王子市制100周年花壇の作成やいじめ防止講演会の実施等に取り組んだ。	・保護者や地域の方々から学校運営協議会の活動を知ってもらい、理解を深めてもらうことができた。 ・地域防災訓練やいじめ防止研修等、地域との結びつきを広げる活動ができた。	・学校行事や学習活動への支援として、どのようなことができるか模索していく。 ・来年度は、児童から「あいさつ標語」を募集し、標語を入れた看板を作成して、地域各所に掲示することを中心に、地域にあいさつ運動の輪を広げていく。
	上柚木小学校	10回	・上柚木小学校学校運営協議会として、どんなコミュニティスクールづくりを行えば、学校と家庭、地域が連携した学校づくりが推進できるのか。保護者、地域にどう発信していくか。	・かみゆぎ会(PTAの会)と放課後子ども教室と連携することができた。 ・学校運営協議会主催の企画・運営の行事を行えた(漢字検定、親子料理教室)。	・学校からの報告等情報の共有が、学校運営協議会委員との悩みの共有となって、一緒に学校を作る仲間としての連帯感をもつことができた。 ・各種行事の企画・運営・連携(料理教室、漢字検定等) ・放課後子ども教室との連携	・かみゆぎ会(PTAの会)と放課後子ども教室との一層の連携 ・地域との交流(まずは青少年対策地区委員会と) ・行事の企画・運営の充実(漢字検定、〇〇教室の充実と新規企画の運営⇒文化会館との連携「避難訓練コンサート」)「児童の補習学習教室」等)
	鐘水小学校	5回	・協議会での協議事項が少なく、初年度のため、地域運営学校のあり方、地域運営学校として何ができるかを模索する1年であった。	・落ち葉清掃や花壇整備などの環境美化活動を行った。 ・町会等がない地域のため、地域全体に4,000枚ボランティア募集を配布した。	・地域の人材発掘並びに地域運営学校の地域認知度が向上した。	・教育活動に関する討議事項の充実(学校評価、経営方針、体力テスト等) ・小中学校合同開催だが、それぞれの課題について発展させる。
	第五中学校	10回	①子どもたちを取り巻く環境や課題について共通認識を図り、子どもたちのより良い成長を願い、学校・地域・家庭が相互に取り組めることについて ②学校運営協議会が組織として主体的に活動していくことについて	①学校運営協議会委員と教職員が意見交換をする場を複数回設け、「目指す生徒像」、「生徒を取り巻く課題」等について協議をおこなった。また、学校公開日に学校運営協議会を多く設定することにより、学校運営協議会委員が生徒や教職員、参観する保護者の様子をより具体的に捉えられるようになった。 ②学校運営協議会1年目として、「学校支援部」、「地域連携部」、「広報部」、「評価部」を組織し、活動内容を協議した。大きな取組の一つとして、多数の地域人材の協力のもと地域防災訓練を実施した。	①学校運営協議会発足初年度、学校運営協議会委員が学校関係者評価を時間をかけて行うことができた。それにより、地域が学校や子どもたちを見つめ、できることを少しでもやっという意識の高まりにつながった。 ②学校と地域、学校と保護者、地域と保護者、生徒と地域の信頼関係を築くことにつながった。地域アンケート結果では、「学校は地域の誇りになっている。」への肯定的回答が92.6%となった。委員が自らの部の役割を認識し、活動していこうとする意欲につながった。	・地域小学校学校運営協議会との連携を深め、小中学校9年間という長いスパンで子どもたちの成長を支援できる体制作りが必要であり、今後の課題である。 ・学校運営協議会委員だけが動くのではなく、学校運営協議会委員を中心とした各部の実行委員を明確に組織し、活動を活性化していくことが大きな課題である。

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成29年度設置	第七中学校	7回	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程及び学校経営計画について ・地域人材の掘り起しについて ・教職員の任用に関して 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会委員の学校行事への参加 ・町会や自治会の理事会組織を活用すること ・校長に現状と課題を十分に聞き取ったこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価を参考に、平成30年度教育課程及び学校経営計画について助言することができた。 ・学校の教育活動を支援する地域人材を発掘するための方策を描くことができた。 ・人事に関する要望に沿う教員が配置された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な教育活動の把握及び評価 ・地域と学校をつなぐ学校コーディネーターの確保 ・教職員の職務遂行についての把握
	甲ノ原中学校	5回	<ul style="list-style-type: none"> ①「確かな学力の定着と向上」に向けての支援について ②円滑な図書室運営に向けての支援について 	<ul style="list-style-type: none"> ①学習ボランティアによる学習支援 ・数学、英語の授業を中心に学習ボランティアによる授業内での支援 ・チャレンジタイム(自学自習教室)における学習支援<毎週水曜日の放課後(全校生徒対象)、夏休み(全校生徒対象)、土曜日(3年生対象)、冬休み(3年生対象)> ②図書ボランティアによる円滑な図書室運営に向けての支援 ・昼休み時間の図書室の開館支援と生徒の見守り ・定例会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ①学習ボランティアによる学習支援 ・特に数学において複数の学習ボランティアが1年間通して授業に入ることができた。 ・学校が主催したチャレンジタイム(水曜日:30回、夏休み:8回、冬休み:6回、土曜日(9月-2月):14回)を、教員と意思の疎通を図りながら支援できた。特に3年生が対象で受検に特化した土曜日チャレンジタイムは、生徒の課題を踏まえ個別支援が効果的にできた。 ②図書ボランティアによる円滑な図書室運営に向けての支援 ・副校長、学校司書、司書教諭、図書ボランティアが出席する定例会を学期1回を基本に年4回実施できた。その都度課題を確認し、書籍の廃棄作業、書架整理等の作業が円滑に行えた。図書委員会とのコラボ作業も楽しく円滑に取り組めた。 ・年間を通して、火・水・木の昼休みと夏季休業中(8回)の開館準備と生徒の見守りができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①「確かな学力の定着と向上」に向けて、継続して支援していく必要がある。そのための学習ボランティアをどう確保していくのかが課題である。また、発達障害を抱える生徒への効果的な支援をしていくために、特別支援教育についての研修が必要と考える。 ②図書室の円滑な運営、読書環境の向上等に向けて、継続して支援していく必要がある。学校司書の出勤日に合わせて図書ボランティアの定例会を設定している。図書ボランティアの人材確保が課題である。
	石川中学校	9回	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会委員の取組方(内容)の研究 ・石川中学校を知る(学校行事や公開授業等を通して、教職員・生徒それぞれの取組方を知る) 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育における「意見発表会」(学校運営協議会委員・青少年対策地区委員会委員と共に実施)ではより良い発表会に向け話し合いの時間が持つことができた。 ・学校運営協議会委員が道徳授業地区公開講座に参加し、生徒の取組方や発言内容から意見や感想をもらい、次回からの道徳授業への研究に生かした。 ・学校運営協議会を本校よりも早く開設している学校(近隣の小学校)の副校長を講師に迎え、より有効な組織体制や実施内容を聞き検討した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の教育実践内容の把握と理解が深まった。 ・生徒の生活の様子や学習への取組状況についての理解が深まった。 ・委員と管理職が話す機会が増すごとに相互理解が深まり、また、学校運営協議会委員と教職員との距離が少しずつ近くなり、今後への良い環境ができてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会が本校で有効と思われる取組内容を提案し管理職と共に考え、学校の実態に合うように方法を工夫・コーディネートし実施していく。(学習ボランティアの募集等) ・学校運営協議会委員が校内研修等に参加し、教職員と交流することにより、共通意識を持ち前進できるように進めていきたい。
	長房中学校	11回	<ul style="list-style-type: none"> ・体育大会の競技、種目の安全対策について ・標準服の衣替え期間について(期間で決めるだけでなく、温度も考えた方が良いのでは) ・放課後学習教室の利用の仕方について ・学習ボランティアの募集状況について ・今後の地域との交流について ・学校給食(献立、食事時間、配膳方法など)について ・夏の地域納涼祭パトロールについて ・市制100周年記念講演会に向けて内容説明、記念植樹について ・台風時の学校対応について(地域や近隣小学校との連絡体制について) 	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後学習教室 	<ul style="list-style-type: none"> ・開始当初より、40名程度の生徒が常に参加している。 ・今年度は、毎週木曜日に実施している。週2回の実施を目標にして、ボランティアを募集している。 ・2学期以降は自習教室と基礎学習教室に分けて実施している。 ・1年間を通じて、非常に生徒にとっては、有効な取組になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習教室を自習室と基礎学習室に分け、2教室で実施するまでにしていきたい。 ・学習ボランティアを総数で10名前後にすることが必要である。 ・ある程度生徒の質問に対応できる人が、数名いることが大切に感じる。

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成29年度設置	横川中学校	12回	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や保護者との連携のあり方 ・学習支援のあり方 ・地域防災体制の組織のあり方 ・広報活動のあり方 	<ul style="list-style-type: none"> ①PTAと連携した漢字検定の実施 ②PTAと連携した3年生対象学習教室(夏季及び放課後)の実施 ③キャリア教育、学習支援における地域人材の活用(ボランティア登録制度) ④小中合同引取り訓練への地域の参加 ⑤地域運営学校便りの発行(年間9回) ⑥地域に対する登録ボランティアの呼びかけ ⑦地域に対する学校運営協議会の活動報告会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ①PTAと連携し漢字検定を年間3回実施し、受検者数88名 ②PTAと連携した学習教室を実施した。夏季学習教室7日間、国語・数学・理科・英語の4教科28コマ開催。8名参加。放課後学習教室11月～2月 国語・数学・英語の3教科 4名参加 ③キャリア教育、学習支援における地域人材の活用(ボランティア登録制度)により、2年生の総合的な学習での講師、学習教室の講師を地域の方に担当していただいた。 ④小中合同引取り訓練への地域の参加 ⑤地域運営学校便りの発行(年間9回)により、学校運営協議会の活動の周知ができた。 ⑥地域に対する登録ボランティアの呼びかけによる登録者5名 ⑦地域に対する学校運営協議会の活動報告会(3月)実施。町会長、青少年対策地区委員会委員長、民生委員の参加を得て実施 	<ul style="list-style-type: none"> ①PTAと連携を図り、漢字検定に加え、英語検定を次年度実施して、小学校の英語の教科化にも対応していく。 ②3年生対象学習教室は継続実施 ③進路指導部と連携をしながら地域人材の活用も引き続きしていく。 ④地域防災の視点での活動の推進をしていく。学校運営協議会に対する理解を深めていくことが課題である。今年度の活動をふまえ、「持続可能」、「より良い地域創り・学校創り」という視点に立ち、「何を誰とどのように」連携し活動推進していくかを検討していくことが課題である。
	打越中学校	10回	<ul style="list-style-type: none"> ①学校の取組「学び合う授業づくり」を理解し、協力体制を構築する ②地域行事への生徒の参加促進 ③地域連携防災訓練の企画と調整(平成31年3月9日実施予定) ④放課後学習、漢字検定、英語検定の実施準備 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校運営協議会委員による「学び合う授業づくり」校内研修会に参加し意見交換、教職員との交流面談 ②ボランティアカード作成、ポイントにより学校運営協議会より表彰 ③校区内自治会長、防災担当者との合同防災訓練会議 ④放課後学習教室実施(地域人材活用)、漢字検定視察、係打ち合わせ(PTAと連携) 	<ul style="list-style-type: none"> ①本校の特色となる「学び合う授業づくり」の趣旨を理解して、教職員との面談を行うことができ、相互理解につながった。 ②生徒のボランティア参加率が大きく伸び、地域から評価されている。生徒の自己肯定感も高まった。 ③自治会との連携促進につながった。 ④放課後学習教室は軌道に乗った。漢字検定、英語検定は次年度より学校運営協議会主催で行う体制ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①地域人材を活用した学習支援、また学び合いを推進する。 ②地域行事の企画運営に生徒を関わらせる取組を行う。 ③地域連携防災訓練を学校主体から、学校運営協議会を軸とした地域主催のものとして、持続可能なものとする。 ④地域人材を活用した学習支援、また学び合いを推進する。
	松が谷中学校	6回	<ul style="list-style-type: none"> ①松が谷地区の生徒をより良く成長させていくための、幼稚園・保育園、小学校、中学校、高等学校、大学との効果的な連携活動について ②小学生、中学生の地域との関わり方 	<ul style="list-style-type: none"> ①小学校と中学校の連携は、小中一貫教育として、部活動見学、体験授業、出前授業等、組織的に年間を通して行われている。中学校としては、中央大学と連携して、1年生が大学に行き、見学と模擬講義を受ける活動を行っている。また大学生が中学校の授業見学に訪れる活動も行っている。 ②地域の青少年対策地区委員会と連携して、あいさつ運動を実施した。特に、11月はあいさつ月間として、「登下校時に、知っている人に会ったら元気にあいさつしよう。」をスローガンとして活動を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ①小中一貫推進講師が配置されているので、スムーズな連携活動が行われている。また、各校の運営協議会の委員には、小学校と、中学校の両校に関わっている方もいるので、活動内容を理解した上で支援いただいている。 ②3校合同学校運営協議会(松が谷中、鹿島小、松が谷小)において、「登下校時に、知っている人に会ったら元気にあいさつしよう。」について確認できたので、小学校、中学校で共通行動をとることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①幼稚園・保育園、小学校、中学校、高等学校、大学との効果的な連携活動については、様々な可能性が考えられるので、関係者が事前協議を十分に先行進めたいようにする。 ②「あいさつ」は、中学校としても特色ある活動の一つなので、小学校、地域との連携を強化して進めていく。
	上柚木中学校	11回	<ul style="list-style-type: none"> ①地域との連携に関する協議 ②生徒の学力向上に関する協議 ③教職員との懇談に関する協議 ④PTA、保護者との連携に関する協議 	<ul style="list-style-type: none"> ①青少年対策地区委員会との連携を図り、生徒や教職員も青少年対策地区委員会の活動に積極的に参加する。 ②学習ボランティアによる夏季休暇中および放課後の学習教室の開催 ③教職員との懇談での意見の聞き取り ④学校公開の日にPTA主催で行っている「上中カフェ」に学校運営協議会委員が参加 	<ul style="list-style-type: none"> ①青少年対策地区委員会の防災訓練や夏祭りに生徒が参加することによって、地域の一員としての自覚が生まれた。地域の方々も中学生の力を認識し、交流する機会となった。 ②毎週の放課後学習の継続によって、勉強する姿勢や基礎力の定着に役立っている。 ③教職員一人ひとりと懇談することで関係を築き、よりよい学校にするための意見を聞くことができた。 ④保護者と学校運営協議会の委員が話す場所を作ることによって、保護者の心配事や相談に乗ることができ、学校運営協議会を知ってもらう機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字検定・英語検定を学校運営協議会で実施する事で、生徒の学力向上と教員の負担軽減を図る。 ・夏季休暇中の学習教室については、夏休み後半にも行ってほしいとの意見が出たので、今後は前半後半に分けて開催する。 ・各種検定や学習教室等のため人材確保が必要となる。PTAとも協力し、卒業生保護者へ向けて地域サポーター登録を勧めるとともに、さまざまな地域の人材に中学校への協力を呼びかける。 ・学校運営協議会について、保護者や地域の認知度が低いので、お知らせの配布や保護者会等で活動内容を周知する。

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題
平成29年度設置	鍵水中学校 5回	<ul style="list-style-type: none"> 協議会での協議事項が少なく、初年度のため、地域運営学校のあり方、協議会として何が出来るかを模索する1年であった。 鍵水小学校協議会との連携及び地域の実態に即した協議会活動の企画・実施について協議した。 	<ul style="list-style-type: none"> 放課後の補習教室や漢字、英語検定の試験監督など 町会等がない地域のため、地域内全戸に協議会通信と学校支援ボランティア募集のチラシ4,000枚を配布 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人材発掘並びに地域運営学校の地域認知度の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 教育活動に関する討議事項の充実(学校評価、経営方針、学力調査等) 小中学校合同開催だが、それぞれの課題について発展させる。 事務局体制の体制強化